

九十七分間 月世界旅行第五卷

米國シユルズ、ベルン氏 著

日本井 上 勤 譯

第十六回之續

却説テ已ニ前編ニ述フルカ如ク「コルンピヤド」砲ノ内部ニ
 ハ一小塊ノ泥沙ヲ見サルニ至リシヲ以テ茲ニ於テ直ニ
 砲孔ヲ琢磨セシガ僅カニ四週間余ニシテ彼ノ巨大ナル砲
 孔ハ光澤恰モ玻璃鏡ノ如クナリタリ爰キニ社長ハルビケ
 ン「氏カ豫定シタル如ク十二月ヲ待タズシテ早已ニ九月
 日ニ於テ絶世無比一見寒膽スヘキ巨砲ノ製作ハ其
 タリ故ニ唯指ヲ屈シテ第四回ニ續進スル所ノ月
 ノ其期ヲ待ツノミ



二 此時一營テ會社ノ社員ハ其欣悅限リナク手ノ舞ヒ足ノ蹈ムヲ知ラズ中ニ就テ「ゼー、チー、マストン」氏ハ喜色限リナク踊躍恰モ狂スルカ如ク仰テ蒼々タル昊天ニ叫ヒ俯シテ無間地獄ノ如キ最深ノ砲孔ニ臨ムコト數回ナリシカ忽チ躓テ彼ノ砲孔ニ陷ラントシタリシカ幸ニシテ「ブロンズベリ」氏其傍ニ在リ直チニ「マストン」氏カ衣服ヲ捉ヘ之ヲ援ケタルヲ以テ僅カニ危難ヲ脱スルヲ得タリ若シ同氏ヲシテ其傍ニアラシメズ「マストン」氏ヲシテ彼ノ無間地獄ニ旅行セシメハ氏ハ生來口裏ニ裝置シタル巨砲ヲ發射シテ一發ノ下ニ地獄ノ人民社會ハ其鼓膜ヲ破リ去ラレ悉ク聲トナリ假令ヒ將來我カ同胞兄弟ガ彼ノ地下國ニ轉藉シ或ハ鬼族ノ徒ト紛議ト生スレトアルモ地獄ノ裁判官ハ耳聽

ク能ハサルヲ以テ公明ノ處置ヲ受クルノ幸福ヲ失フノミナラス全ク訴ヲ聽クモノナキノ不幸ニ至ランカト或ハ戲言ヲ以テ之ヲ笑ヒ或ハ其生命ヲ全フシタルヲ祝シ少時罵々ノ聲囂マサリキ

斯クテ巨砲ハ已ニ全ク成功シタルニ因リ營ヲ輿論ノ一大問題トナリタル巨砲鑄造ノ成否ハ今日ニ決定シタレハ其不成功ヲ痛論シタル「ニコール」先生ハ十月六日ニ至リ鑄造ノ箇條ニ賭ケタル金額二千弗ヲ社長「バルビケー」氏ニ拂渡シタリ「ニコール」氏ノ事此時世上ノ流言ニ據レハ「ニコール」氏ハ鑄造ノ事自己意見ノ外ニ出テ圖ラヌ巨額ヲ失フタルヲ憤ホリ竟ニ病癒ニ横臥シテ久シク門戸ヲ出テサルト

三 ヤカ然レモ同氏ニ於テハ前ニ痛論シタル四箇條ノ中尙ホ

四 三箇條ノ問題ニ略ケタル金額アリ一箇條ハ三千弗一箇條
ハ四千弗一箇條ハ五千弗ニシテ未タ勝敗決定セサレハ假
令ヒ二千弗ノ箇條ニ敗テ取ルモ右ニ殘リタル箇條ノ中ニ
就テ孰レノ條ヲ問ハスニ箇條ニ勝テ得ルトキハ只タ一箇
條ノ失敗ヲ以テ何ソ憂フルニ足ラシヤ然レモ斯ノ如ク憤
激病ヲ發スルニ至リシモノハ同氏ノ心ニ於テ全ク黃金ノ
得失ハ總テ度外ニ置キ之ヲ問ハスト雖モ巨砲鑄造成否ノ
問題ニ至リテハ其勝敗一身ノ毀譽ニ關沙スレハ自己意見
ノ齟齬シタルヲ以テ且ツ耻ナ且ツ憤ルモ亦タ理ナキコト
ラサルヘシ案下休題茲ニ又タ九月二十三日以降「ストチ
丘上ノ柵門ハ之ヲ開キテ公衆ニ縱覽ヲ許シタルヲ以テ見
物ノ老幼男女ハ其數万ヲ以テ數ヘ雜沓喧囂名狀スヘカラ

ス肩摩頭擊此間ニ偏平木乃伊ノ如キ人物ヲ現出スルニ至
ラソカト想像ヲ起スノ勢ナリ然シテ「テノバ」ノ市街ヨリス
トラソ「丘」ニ到ルノ間人馬絡繹立錫ノ地ナシ抑モ人民カ會
社ノ大事業ニ熱心シタル現今ノ勢ヲ以テ之ヲ考フレハ彼
大事業實驗ノ日ニ至ラハ觀者ノ多キ幾億方ナルヲ知ラヌ
而シテ歐洲各地ノ人民亦タ過半此海峽「テノバ」ニ會合シ
歐羅巴洲中遮然人民不任ノ地ヲ生シ米國ニ地價ヲ騰貴セ
シムルニ至ルハ必然ナルヘシト云フモ過言ニアラサルヘ
シ是ヨリ先キ巨砲鑄造未タ竣功ニ至ラサルノ時已ニ四方
ノ人民山ヲナシテ「ストチ」丘上ノ柵外ニ集リ鎔鉄注下ノ
實況ヲ目撃セント肩相ヒ摩シ頭相ヒ擊テ其狀恰モ巖石ノ
崩ルカ知シ殆ト柵ヲ倒スノ形況ナレモ社長「バルビケ」

五

六 氏ハ泰然トシテ顧リミズ柵外ノ衆庶ハ唯烟焰ノ昇騰スルヲ見ルノミニシテ猶ホ飢者ニ食物ヲ與フルニ手ノ達セサル處ニ滋味ヲ置キ遙カニ其滋味ナルヲ知ラシメ而シテ若シ之ヲ食ハ、其風味如何ナルヘシト想像シ已ニ食欲ニ堪ヘス飛揚シテ之ヲ得ント欲セシムルカ如シ時ニ公衆大呼社長ノ柵内縦覽ヲ許可セサルヲ非難シテ曰ク至公至明ヲ旨トシタル米國人民ニシテ此不公平アルハ何ソヤト將ニ丘上ニ一大騷亂ヲ醸シ社長ハ命ヲ刀下ニ落シ社員ヨリ工人ニ到ル迄皆十殺害セラレ鮮血地ヲ染メ死躰山ヲ爲スノ慘狀ヲ現出センモ計ルヘカラスト厄殆ノ念ヲ懷クモノナキニアラサリシカ社長ハ猶ホ剛強不撓心少シモ動クコトナク鑄造成功ノ日ニ至ル迄工人ヲ指揮スルヲ猶ホ華盛頓

カ獨立戰爭ニ際シ硝煙彈雨ノ間ニ立チ大軍ヲ指揮スル寫眞ノ如シト云フモ過言ナラサルヘシ既ニシテ群集ノ公衆ハ巨砲鑄造落成ノ報ヲ聞クヤ争フテ之ヲ視ント欲シ其勢山壑ノ崩ルカ如ク社長モ之ヲ防ク能ハス竟ニ柵門ヲ開キテ公衆ノ縦覽ヲ許シタリキ是ニ於テ社長以爲ラク今此機ニ乗シテ社會ヲ富スノ策ヲ施カハ其速カナル猶ホ彼巨砲鑄造ノ如クント乃チ衆庶ノ意見ヲ察スルニ唯柵内縦覽ヲ得ルヲ以テ足レリトセス更ニ巨砲ノ内部ヲ縦覽シテ無間地獄ノ如キ最深ノ地下ニ到ルヲ得ハ是レ吾人ガ此地球上ニ生マレ無上ノ幸福ナリト思ハサルモノナキガ如シ因テ社長ハ衆庶ノ好孝心ヲ慰メン爲メ繩ヲ以テ夥多ノ大籠ヲ造リ之ヲ蒸氣仕掛ケ「クレーン」ヨリ陸上スルノ具ニ掛ケ

人ノ民ノ雜ヲ製スル



八人ヲシテ其内ニ座セシメ砲孔中ニ下タスノ準備ヲナシ之
 レヲ公衆ニ知ラシメシメカ爲メ柵内ノ各處ニ廣告書ヲ貼シ
 砲孔ヲ縦覽セント欲スル者ハ一人ニ付五弗ヲ出スヘシト
 記載セシカハ老若男女ヲ問ハス皆ナ争フテ砲孔ノ内部ヲ
 縦覽セント欲スルモノ山ノ如ク林ノ如ク僅カニ二ヶ月間
 ニ五十万弗ノ巨額ヲ得テ以テ砲銃會社ノ囊裏ヲ膨脹セシ
 メタルハ豈ニ愕シヘキコアラヌヤ
 茲ニ會社ノ社員ハ群集ノ觀者ニ先テ砲孔中ニ下リタレハ
 金屬猶ホ未ダ熱シタルニ因リ社長「バルビケーン」社員「マ
 トン」少將「エルフイノスト」中將「プロンス
 ベリー」等ノ拾餘名ハ殆ント氣息ヲ絶ツニ至リシトカヤ而
 シテ九月二十五日砲孔ノ底面ニ於テ巨砲落成ノ祝宴ヲ開

キ巨砲ノ下底ニ巨大ナル食卓ヲ置キ主客團樂電氣ノ光ヲ
借リテ燈花燦爛タリ暗黒ノ地下モ爲メニ地上ノ晝ノ如シ
夥多ノ珍味ヲ盛りタル花紋ノ磁器ハ晃々トシテ客ノ前ニ
降リ恰カモ天女ノ贈物ノ如ク杯裏ノ美酒ハ遠ク佛國ヨリ
輸送シテ深ク地中九百尺ノ下ニ容ヲ醉ハシム亦々奇ト云
ヘシ地下ニハ主客酒已ニ酣ニシテ足踏蹴或ハ歌フ者アリ
或ハ叫フ者アリ或ハ蒸餅ヲ擲ツモノアリ或ハ酒杯ヲ飛ハ
ス者アリ喧々囂々地神モ爲ニ睡魔ヲ攪サレ華胥ニ趣ク能
ハサルヘシト想像セラル然シテ其影響ハ斯ク長キ砲孔ニ
充溢シ或ハ此点ヨリ彼点ニ返響シ或ハ彼處ヨリ此處ニ返
響シ漸々上ニ昇リ竟ニ砲口ニ達シ其聲雷ノ如シ地上ニハ
九群集ノ觀者此成功ヲ祝シテ酒ナキモ或ハ頌歌ヲ唱ヘ或ハ

十 必狂シテ大呼ヲナシ上下ヲ喧鬧共ニ相合シテ俄然「スト
ン」丘上ニ一大歌海ヲ現出セリ特ニ「セイ、チー、マストン」氏ハ
傲然トシテ或ハ飲ミ或ハ食ヒ或ハ踊リ或ハ歌ヒ一大帝國
ノ大地モ此ノ地下ノ小郷ニ遠ヘストナシ假令ヒ今此ノ巨
砲ヲ發射シ自己身體ノ粉肉瀝血ヲ彼月世界ニ飛ハスモ敢
テ遺憾ナキノ顔色ナリ亦タ盛ナリト云フヘシ

第十七回

電信報知

前回已ニ説話セルカ如ク會社ノ大事業中ノ最モ困難ナル
鑄造ノ工業ハ已ニ僥倖ヲ得テ其工ヲ全クシタルハ目今餘
ス所ノモノハ唯二ヶ月ヲ經レハ我使節ヲ月世界ニ派遣セ

シムルノ一事アルノミ然ルニ世上ノ衆庶ハ此二ヶ月ヲ待
ツテ恰モ數年ノ星霜ヲ經ルカ如キノ思想ヲナセリ種々ノ
新聞雜誌ハ彼工業ノ順次ヨリ成功ノ模様ヲ詳細ニ載録シ
人皆ナ争フテ之ヲ購求セリ故ニ新聞雜誌ヲ以テ富ヲ致ス
モノ少シトセス此時ニ當リ最モ人心ヲ鼓舞シ又々人ヲシ
テ會社ノ事業ニ熱心セシムヘキ古今無比ナル意外ノ一事
ヲ生シ來レリ即チ九月三十日午後三時四十七分發社長「ハ
ルビケーン」氏宛ノ電報ハ「バレンシヤ」ヨリ「ニユーファチン
ドランド」迄海底線ヲ過キ又亞墨利加大洲線ヲ過キテ到着
セリ社長ハ直チニ其封ヲ破リ開キテ之ヲ誦讀スルヤ生來
ノ大膽外物ノ爲メニ心ヲ動かサスト雖モ唇色忽チ青白ク
眼色忽チ朦朧タリ蓋シ驚愕ノ甚シキニ因ルナルヘシ其電

彈丸ハ圓錐形ヲ以テ眞圓形ニ代ユヘシ余ハ其彈丸ニ
認シテ月世界ニ向フテ發程セントス故ニ直チニ氣船
「アトランタ」號ヲ以テ此地ニ發スヘシ

九月三十日午前四時巴里斯府發

ミチエルクアイデン

合衆國「フロリダ」地方「テンパ」市街ニテ

社長「バルビカイ」氏

第十八回

氣船阿土蘭多号ノ旅客

前回ノ末段ニ於テ記載シタル一讀戰慄スヘキノ報知ハ電

信線ヲ借テ報道セラレタルガ故ニ社長モ亦少シク疑念
ヲ抱クト雖モ若シ尋常ノ書翰ヲ以テ報告シタラシムニハ社
長モ寸陰分時ノ思考ヲ待タス必ラス云ハントス是レ會社
ノ事業ヲ嘲ケルナラント然レモ社長以テ爲ラク地球上人ト
シテ誰カ生命ヲ土芥ノ如ク思惟スルモノアラシヤ若シ斯
クノ如キ人アルモ狂院ノ中ニ幽閉セラレタルノ徒ニ外ナ
ラサレハ假令ヒ此電報ノ故ヲニ違キ巴里斯府中ヨリ來リ
タルモ必ス一時ノ滑稽ニ過キサルベシト此時彼電報ノ風
説四方ニ聞ヘ「ミチエルクアイデン」ノ名衆國ノ各地ニ轟キ戸
トシテ之ヲ語ラサルモノナク人トシテ之ヲ知ラサルモノ
ナキニ至レリ蓋シ電信局役員ノ口ニ漏レタルニ因ルナリ
是ニ於テ社長モ至ク之ヲ一時ノ惡戯トナシ獨リ心ニ留ム

四十

ル能ハス乃チ「テンパ」ノ地ニ在ル所ノ同盟社員ヲ招集シ唯
 彼電報ヲ朗讀シタルハ社員ハ各思想ヲ異ニシ或ハ滑稽ナ
 ラント云ヒ或ハ嘲弄ナラント云ヒ其說一ナラス中ニ就テ
 「マストン」氏ハ少時默然トシテ云ハカリシガ遽然大呼シテ
 曰ク諸君ノ議論紛々ナリト雖モ「アイダン」氏ノ意見亦タ大
 ナリト云フヘシト
 斯クテ發キニ「バルビケーン」氏カ彈丸ヲ月世界ニ送達スル
 ノ演舌ヲナシタルトキ人皆ナ其實効ヲ奏シ得ヘキニ同意
 シクレモ今又タ人類ニシテ彈丸ニ駕シ月世界ニ到ラント
 云フハ全ク戲言ニシテ確實ニアラストナシ誰アリテ之ヲ
 信スルモノナク「斯クノ如キ古今未曾有ノ人物ハ此地球上
 ニアルカ」ノ問題世上ニ傳布シ風評流説區々ナルヲ以テ人

五十

皆ナ之レカ確説ヲ得ント欲シテ社長「バルビケーン」氏ガ語
 ニ集ルモノ門外市ヲ爲シ喧々種リナシ
 一人戸外ヨリ大呼シテ曰ク「ミナエル、アイダン」氏ハ已ニ佛
 國ヲ發シタルヤ
 社長「バルビケーン」氏颯言之レニ應テ曰ク未タ其如何ヲ知
 ラス
 彼レ尙ホ聲ヲ高クシテ曰ク我曹必ラス之レカ確説ヲ聞カ
 ント欲セリ
 社長徐々ニ答テ曰ク時來シハ必ス除然之ヲ知ルヲ得ヘ
 シ
 彼レ復々問フテ曰ク君將ニ「アイダン」氏ノ電報ニ因テ彈丸
 ノ形ヲ變セントスルカ

社長曰ク未タ確定セス今電報ヲ發シテ「アイアン」氏カ確報
ヲ得ントス

「バルビケーン」氏ハ乃チ戶外ニ出テ、群集ノ公衆ヲ先導シ
延テ電信分局ニ到リ直チニ「リバプール」ノ船積荷物保險會
社支配人宛ニテ左ノ電報ヲ發シタリ曰ク

漁船「アトランタ」號ハ何日歐洲ヲ振錨シタルヤ又該船
旅客ノ中ニ「ミサエル、アイデン」ト云ヘル佛人ハアテサ
リシヤ

右ノ電報ヲ發スルノ後待ツコト已ニ二時間ニシテ社長「バ
ルビケーン」氏ハ左ノ回報ヲ得テ胸中ノ疑團全ク氷解スル
ニ至レリ其報ニ曰ク

漁船「アトランタ」號ハ十月二日ニ於テ「リバプール」ヲ振

錨シ「テンパ」市街ニ向フテ發シタリ該船乗組旅客姓名
簿ヲ見ルニ佛人「ミサエル、アイデン」ト云ヘル姓名ヲ記
載セリ

右ノ回報ヲ得ルヤ社長ハ乃チ手翰ヲ以テ彈丸製造ノ事ハ
後日掛合ニ及フマデ中止致サレタキ旨ヲ「ブレットウヰル」
會社ニ申シ送リタリ斯クテ十月廿日午前九時「ハマ」堀河
ノ信號表ハ遙ニ黒烟ノ見ユルヲ報知セシガ夫ヨリ二時間
餘ニシテ巨大ノ漁船ハ黒烟捲テ蒼天暗ク號旗ハ翻テ橋上
ニ白ク午後第四時彼ノ漁船ハ「エス、ピリサユ、サントウ」灣ニ
入り第五時飛走矢ノ如ク「ヒルリス、ボロー」灣ヲ過キ第六時
「テンパ」港ニ投錨シタリ是レ即チ「アトランタ」號ナリ大錨ノ
七ト 未タ海底ニ達スルヲモ待タス五百餘艘ノ小船ハ漁船ヲ圍

八十

三 恰モ敵兵ノ城砦ヲ攻ムルニ異ナラス而シテ第一ニ該船
 ノ甲板ニ上ル者ハ即チ社長「バルビケーン」氏ナリ此時ニ當
 テ氏ハ忽チ非常ノ大聲ヲ發シテ曰ク「ミナエル、アーデン」氏
 ハ何レノ處ニアルヤ
 時ニ船尾樓上ニ在テ嘯ク者アリ答テ曰ク余レ此ニアリ
 社長「バルビケーン」氏ハ乃チ拱手シテ彼ノ旅客ヲ熟視スル
 ニ歳ハ大約四十ヲ越ユル一二年其體格巨大肩ハ稍圓クシ
 テ頭髮黃色ヲ帶ヒ恰モ獅子ノ鬚ノ如シ顔ハ圓形ニシテ額
 廣ク髭ハ剛クシテ猫鬚ニ似タリ鬚亦タ黃色ニシテ腮ノ兩
 傍ニ垂レ眼ハ圓クシテ鏡ク近視眼ノ狀アリ鼻ハ其形ヲ正
 シク口ハ語ルニ當テ特ニ愛スヘク小皺高額ニ滿テ恰カモ
 新タニ耕耘シタル地ニ似タリ其旅客ハ船尾樓上ニ在リテ

九十

或ハ左シ或ハ右シ運動止マス又タ自己ノ爪ヲ咬ミ或ハ科
 話ヲナシ其忙シキ一舟子カ錨鎖ヲ引クニ當リテ人ト語ル
 カ如シ其氣力活潑ニシテ實ニ月世界ニ旅行スルノ剛腸男
 兒ト見エタリ社長ハ進ンテ彼旅客ノ前ニ至リ之レガ手ヲ
 取リ始メテ面會ノ幸ナルヲ述ヘ我が製造セントスル所ノ
 彈丸ニ駕シ彼月世界ニ到リ其藏レタルヲ顯ハシ其住民ヲ
 服従セシメ以テ彼一大世界ヲ此米國合衆中ニ聯合セント
 スルノ大志アツテ遠ク佛國ヨリ來リシカノ顛末ヲ徐々ニ
 聞カント欲シ已ニ一言ヲ出サントスルニ「テンパ」ノ人民方
 ニ甲板ニ上リ旅客人民共ニ群カリ其喧嘩ナルヲ製鉄場ニ
 アルカ如ク恰ナカラ酒狂ノ大群ニ異ナラス狂叫亂呼ノ間
 相語ル能ハス「ミナエル、アーデン」氏モ此間ニ圓マレ一指モ

自由ニ之ヲ動カス能ハス或ハ左ニ押サレ或ハ右ニ衝カレ
漸ク圍ミテ出ツルヲ得ルモ迷ニ自己船室ノ戸ヲ閉
ツル能ハサリキ社長ハ默然同氏ヲ誘ヒ稍閑ナル所ニ趣ム
ケリ

「アーデン」氏社長ニ接スル猶ホ永年ノ舊友ニ語ルカ如ク徐
カニ問テ曰ク「バルビケトン」氏ト云ヘルハ即チ君ナルヤ

社長答テ曰ク然リ

又問テ曰ク好シ「バルビケトン」君ヨ君常ニ恙ナキヤ

社長又答テ曰ク常ニ恙ナシ君已ニ志ヲ決シ彈丸ニ親シテ
彼別世界ニ到ラントスルヤ

答ヘテ曰ク素ヨリ確固不拔ノ志アラズンバ豈ニ遠ク此ニ
來ルノ理アラシヤ

社長問テ曰ク妻子等ノ此行ヲ抑留スルナキヤ

答テ曰ク之レナシ君我電報ニ因テ彈丸ノ形ヲ變革シタル

ヤ

社長答テ曰ク君ノ到着ヲ待ツト恰モ大旱ノ雲霓ヲ望ムカ
如ク然リ而シテ君彼彈丸ニ就テ幾多ノ思慮ヲ費シタルヤ

「アーデン」氏莞爾トシテ答ヘテ曰ク今幸ニ君ノ大學ニ逢ヒ

月世界ニ旅行スルノ好機會ヲ得タリ實ニ絶世無比ノ幸福
ト云フヘシ余彼彈丸ニ付テハ已ニ千思万考ヲ要シタリ

是ニ於テ「バルビケトン」氏以爲テク「アーデン」氏ハ斯ル危険
ノ大事ヲ顔色常ノ如ク泰然トシテ語ルモノハ實ニ古今未

曾有ノ剛腸男兒ト云フヘシト乃チ曰ク余已ニ君カ胸裏ニ

一升
於テ確論アルヲ知ル

二 廿「アーデン」氏徐々ニ曰ク「バルビケーン」君ヨ余少シク説話ナ
キニアラス故ニ余之ヲ衆庶ニ語ラシク希クハ君カ父母兄弟
朋友親戚ヨリ君若シ妨ケナシトセハ亞米利加全國ノ人民
ヲモ招集シ明日我意見ヲ陳説シ其疑問ニ答フル瞭然物ノ
鏡ニ映スルカ如ク以テ米人ノ膽ヲ破ラントス請フ我カ爲
ニ謀レ

社長「バルビケーン」氏答テ曰ク好シ余君ノ爲メニ謀ラシ
社長ハ直チニ「アーデン」氏ノ前ヲ去リ衆庶ニ向ヒ同氏ノ明
目ニ於テ演説スルヲ陳述シタルニ群集ノ人民ハ均シク
手ヲ拍チ或ハ歎聲ヲ發シテ之ヲ賞賛シタリ中ニ就テ「マス
トン」氏ハ例ノ奇異ナル聲ヲ發シ大呼シテ曰ク此ニ絶世ノ
剛腸男兒ヲ出現セリ此ニ絶世ノ剛腸男兒ヲ出現セリ我等

ヲ以テ此勇敢ナル歐人ニ比スレハ恰モ軟弱ナル一婦人ニ
過スト云フモ可ナリ
此時社長「バルビケーン」氏ハ衆群ニ向フテ已ニ退散スヘキ
時刻ナルコトヲ述ヘ而シテ「アーデン」氏ガ室ニ到リ閑話稍
久フシ乃チ明日ヲ約シテ去ル時ニ鐘聲夜半ヲ報ス

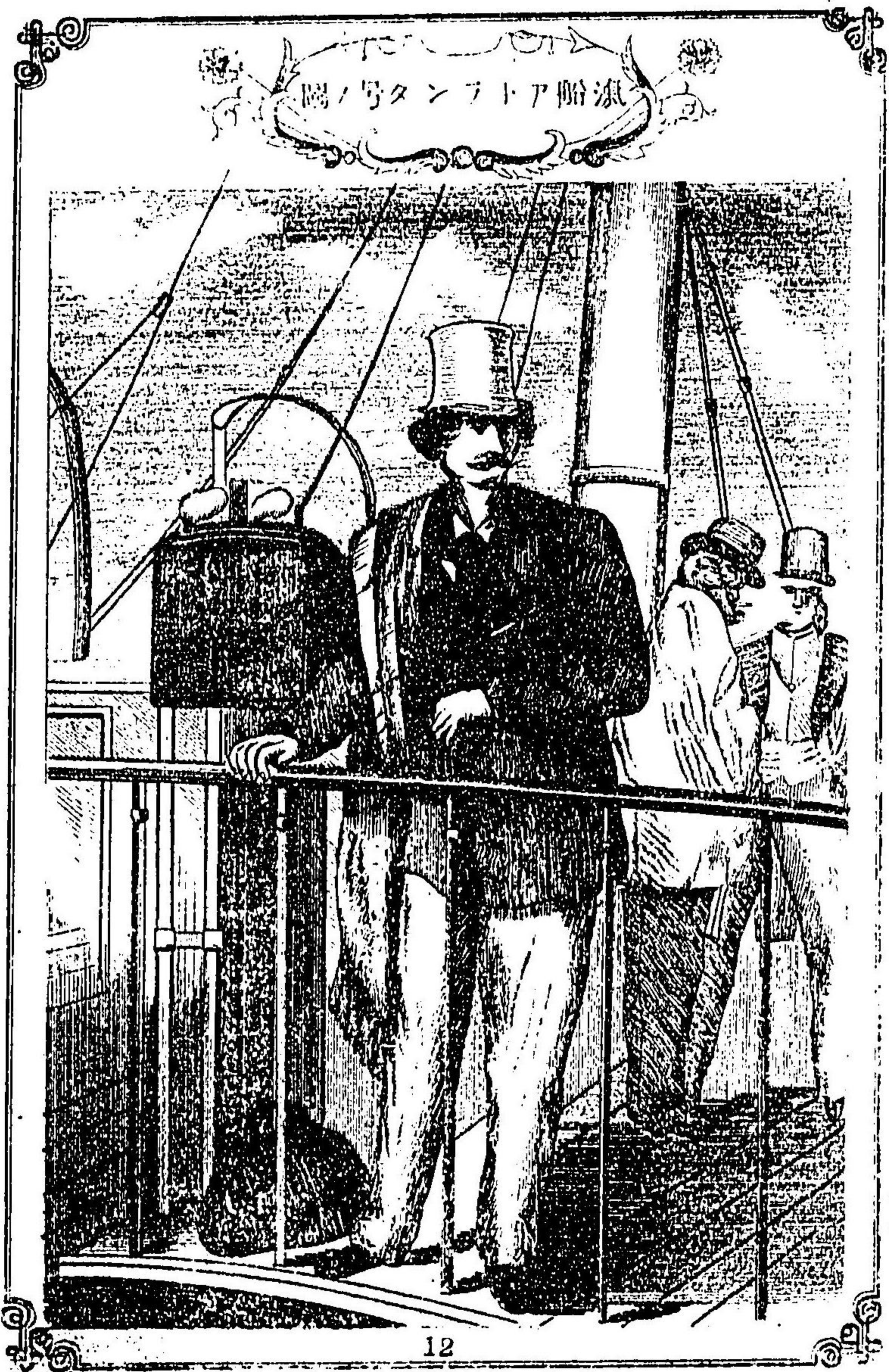
第十七回

演舌ノ大會

茲ニ瀛艦「アトランタ」號到着ノ翌日ハ即チ約ノ如ク大會ノ
日ナレハ社長ハ衆人ノ「ミチエル、アーデン」氏ニ向テ妄リニ
疑問ヲ出シテ其演説ヲ妨ケンヲ恐レ傍聽人ハ學識アル
人ノミチ選ミテ他ハ之ヲ許サ、ルコトヲ決定セント欲シ

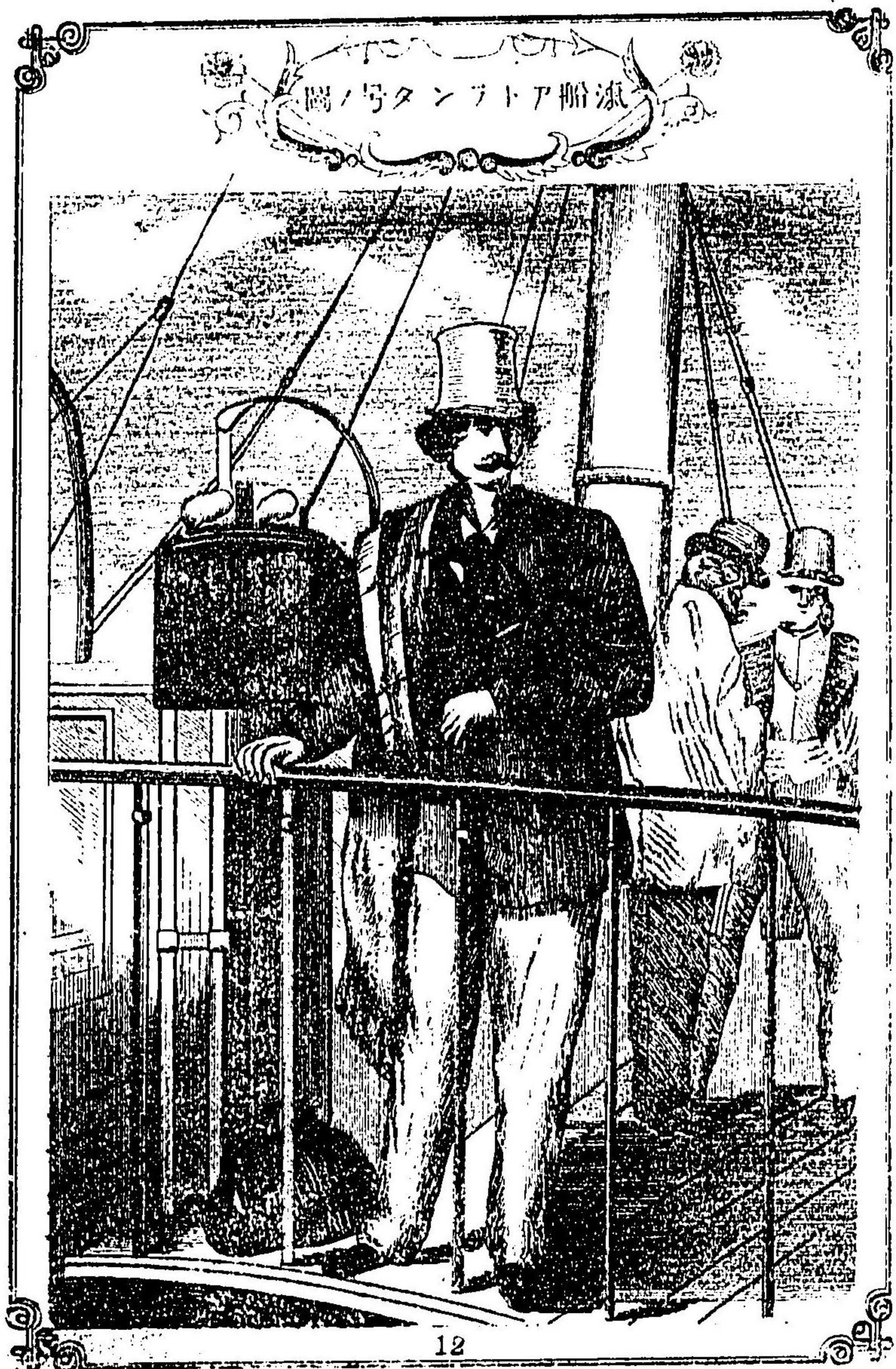
四井

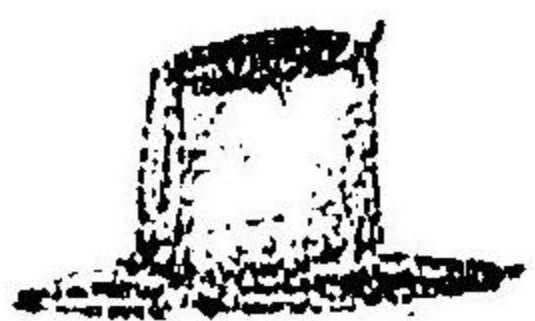
之ヲ同盟社員ニ謀リ頗ル力ヲ盡シタリト雖人心涌クガ
 如ク彼演舌ヲ聽ント欲スル者其勢火焰ヨリモ強ク之ヲ防
 シハ恰モ「ナイヤガラ」ノ深布ヲ堰止セントスルカ如クナル
 ナ以テ竟ニ自己ノ意見ヲ遂クルヲ得ス此日演舌大會ハ
 「テンバ」市街ヲ距ツル一里許ノ處ニ廣大ナル平原アリ乃チ
 此地ヲ以テ其場處トナシ數万ノ帆布ヲ張リテ日光ヲ防
 ト欲シテ拂曉平原ニ到レハ早已ニ公衆群集セリ是ヲ以テ
 意ノ如クスル能ハス然シテ衆人皆日光ノ射灼ニ堪スシテ
 會社ノ不注意ナルヲ非難シ喧囂雷ノ如シ其人員三十万ニ
 下ラス故ニ近キモノハ見聞ヲ恣ニスレモ少ク隔リタルモ
 ノハ唯々人ノ喧嘩ナルヲ聞クノミヨシテ他ハ何物ノ耳ニ
 入ルナク僅カニ演舌者ノ身體ヲ見ルノミ尙ホ遠キモノハ



四升

之ヲ同盟社員ニ謀リ頗ル力ヲ盡シタリト雖人心涌クガ
 如ク彼演舌ヲ聽ント欲スル者其勢火焰ヨリモ強ク之ヲ防
 シハ恰モ「ナイヤガラ」ノ深布ヲ堰止セントスルカ如クナル
 ナ以テ竟ニ自己ノ意見ヲ遂クルヲ得ス此日演舌大會ハ
 「テンバ」市街ヲ距ツル一里許ノ處ニ廣大ナル平原アリ乃チ
 此地ヲ以テ其塲處トナシ數万ノ帆布ヲ張りテ日光ヲ防
 ト欲シテ拂曉平原ニ到レハ早已ニ公衆群集セリ是ヲ以テ
 意ノ如クスル能ハス然シテ衆人皆日光ノ射灼ニ堪スシテ
 會社ノ不注意ナルヲ非難シ喧囂雷ノ如シ其人員三十万ニ
 下ラス故ニ近キモノハ見聞ヲ恣ニスレモ少ク隔リタルモ
 ノハ唯々人ノ喧嘩ナルヲ聞クノミコシテ他ハ何物ノ耳ニ
 入ルナク僅カニ演舌者ノ身體ヲ見ルノミ尙ホ遠キモノハ





大雷ノ中ニ立ツカ如ク耳鳴リ精神茫乎トシテ又演舌者ノ
何レニアルヲ知ラス第三時彼「ミチエル、アードン」氏ハ銃砲
會社ノ重立タル社員ヲ伴ヒ徐ロニ聽衆ノ間ニ歩ミ來レリ
其右ニアルヲ社長「バルビケーン」氏トシ其左ニアルヲ「ゼー
ナ、マストン」氏トス皆ナ各美服ヲ裝飾シ光線之ニ映シテ
其色燦爛タリ暫クアリテ「アードン」氏ハ高座ニ上リ一望千
頃黒帽波ヲナシ人海ノ如ク同氏ハ恬然トシテ顔色快樂平
生自家ニ在ルカ如ク其時聽衆ハ歎聲ヲ發シテ之ヲ賞賛シ
タリ同氏ハ乃チ之レニ答フルニ頓首再拜而シテ手ヲ以テ
聽衆ノ鎮靜セシメテ表シ正格ナル英語ヲ以テ左ノ事ヲ説
キ出セリ

五廿

曰ク諸君此炎天ヲ厭ハス遠ク貴臨ヲ辱フス我カ幸何

六井

ヲ如カン希ハクハ暫ク此炎日ヲ忍テ諸君ガ奇ト呼ヒ
 妙ト稱スル所ノ天外旅行ニ付我カ説ク所ヲ聽キ給ヘ
 余素ヨリ雄辨者流ニアラス又々博識家ト云フニアラ
 ス豈ニ博識多聞ナル諸彦ノ前ニ立ツテ一言ヲ呈スル
 ノ心アラシヤ然リト雖モ余竊カコ之ヲ吾友「バルビケ
 ー」氏ニ聞ク諸君近日荐^レニ淺識魯劣ヲ棄テス余カ
 説ク所ヲ聽カント欲スト是レ今日淺劣ヲ願ニス諸彦
 ナ瀆^ト冒シテ以テ一言ヲ呈シ僅カニ諸彦ノ熱望ヲ慰ム
 ル所以ナリ故ニ假令ヒ説話ノ間ニ言語ノ誤謬アルモ
 請フ之ヲ咎ムル勿ク暫ク耳^ヲ聳テ余ニ借セヨ諸君若シ
 我カ説ク所ヲ聞カハ必ス事ノ難易ヲ辨セサル一大愚
 者ナ地球上ニ出現セリト思ヒ給フヘシ然レモ余ニ於

七井

テハ彼ノ彈丸ニ駕シ遠ク月世界ニ旅行スルノ事業ハ
 必クス理論實地兩ナカラ容易ニ爲シ得ヘキトセリ
 故ニ必ス早晚彼月世界ニ向フテ程ヲ發セサルヘカラ
 ス請フ人事漸進ノ天法ヲ見ヨ其始メ人皆ナ而足ヲ以
 テ歩ニ次ニ人力ヲ以テ牽引スル所ノ輕車ヲ造リ次ニ
 馬車ヲ製シ竟ニ駿速ナル蒸氣車ヲ發明セリ故ニ此道
 理ヲ以テ推ストキハ彈丸モ亦々將來必ス車ノ用ニ充
 ツルヲ能ハストセス然ルモハ諸惑星ト我カ地球間ニ
 通信ヲ開クハ甚ク易キヲナリトス然云フモハ諸君將
 タ云ハントス彈丸ノ速力ヲ如何セント余以爲テク斯
 シノ如キ速力モ亦ク何ク畏レニ足ラノ請フ見ヨ衆星
 ノ速力ハ彈丸ノ速力ニ優サルコト遠ク又々我地球ノ

吾人ヲ載セテ太陽ノ周圍ヲ巡回スルヤ其速力彈丸ニ
超ユルヲ三倍ニシテ之ヲ他ノ惑星ニ比スレハ恰モ老
人ノ杖ニ依テ歩行スルト駿馬ノ驅馳スルトノ如ク其
差異亦々如何ソヤ實ニ思フヘキナリ
人アリ大呼シテ問フテ曰ク將來惑星ノ速力ハ増加ス
ルカ將ク滅却スルカ

演舌者答テ曰ク漸々其速力ヲ減スルナリ

又徐々ニ説テ曰ク諸君或ハ井底痴蛙ノ見識ヲ有シ其
腦髓ノ小ナル芥子ノ如ク以テ地球内ニ幽閉禁錮セラ
レ然シテ地球ヲ離レテハ必ス他ニ行クヘカヲサルモ
ノトス豈ニ誤考謬思ノ甚シキモノト云ハサルヘケン
ヤ然レトモ我輩ハ此等ノ人物ガ啞々トク誹議ニ關セス他日

必ス吾人ガ「リパープール」ヨリ「ニウヨルク」ニ旅行スル

カ如ク駿速、容易、安全ノ三ツヲ全フシ以テ彼ノ月世界
ヨリ惑星及ヒ他ノ衆星ニ旅行スルノ自由ヲ得ントス

此時聽衆ハ寂トシテ聲ナク佛國ノ剛腸男兒ガ雄辨ナル演
舌ニ耳ヲ傾ケレカ今説キ終ハリタル説話ノ一段ハ其勇氣
凜然タル「佛帝那王」モ爲メニ三舍ヲ避クヘキノ勢ナルニ
因リ或ハ眞事ナランカ將ク事ヲ好ンテ妄リニ奇話ヲ作り
出シタルナランカト疑念スルノ色アリ

「ミナエル、アトア」氏ハ早ク聽衆ノ我カ説ク所ニ於テ
疑團ヲ抱ケル色アルヲ悟リ顔色快然微笑ヲ含ミ徐
ニ又説テ曰ク聽衆ノ諸君ヨ君等ハ恰モ我カ説話ヲ狐
疑スルモノ、如シ故ニ今仮リニ我カ説ク所ハ虛妄ニ

シテ理ニ適セサルモノトナス亦然リ然リト雖也諸君
 ハ臨時渾車ヲ以テ此地球ヨリ彼月球ニ到ルノ間其日
 數ハ幾日ナルヲ知ルヤ唯三百日ニ過キス其兩球間ノ
 距離ハ地球周圍ノ九倍ニ過キス而シテ世上ノ航海ヲ
 ナスモノ又陸路ヲ旅行スル者ヲ見ルニ一生ノ中其經
 歷シタル距離ノ最モ長キモノト雖モ僅カニ自己カ終
 身ニ經歷シタル日數ヲ少シク越ユルニ過キス然レモ
 今我旅行セントスルハ唯九十七時ナリ諸君ハ兩球
 相距ツルノ間最モ遙遠ナルヲ驚キ我等ノ別世界旅行
 ヲ以テ恰カモ暴夜物語ノ怪談ト均マク思ヘリ吁誤テ
 ルカナ斯クノ如キ容易ナル旅行ヲ以テ此ノ如ク愕然
 タルトキハ今ハアリ彼大陽ヲ距ツルコト二十七億二千

余万里ノ處ニ巡回セル「テプチユートン」星ニ向フテ旅行
 セントスト云ハ、君將タ何トカ云ハン且彼「アルク」チ
 ユルス」ノ如キ恒星其距離我ヲ距ツル數千万里ナルヲ
 以テ彼ノ月球ト此地球ト相距ツルノ距離ヲ想像セハ
 君將タ之ヲ何トカ思フ其近キト比隣ノ如シ而シテ世
 人皆ナ何星ト地球ノ距離ハ幾何地球ト大陽ノ間其距
 離幾何ナリ云々ト頻リニ天体各箇ノ距離ヲ説クト雖
 モ是レ皆ナ妄虛背理ニシテ以テ論スルニ足ラス請フ
 我カ此ノ大陽系ニ付テ思想スル所ノ確説ヲ語ラン其
 說簡ニシテ足レリ今之ヲ思考スルニ抑モ此ノ大陽系
 ハ堅固ナル實質ノ体ニシテ之ヲ組織シタル衆惑星ハ
 互ニ相密着シテ其間ニ存在シタル空間ト云ルハ唯僅

カニ金銀銅鉄白金等ノ如キ金属ニ均シク各細分子ノ至微至細ナル空間ノミ故ニ何星ト地球トノ距離幾何大陽ト何星トノ距離幾何ト云ヘルハ何等ノ名稱ソヤ其間真ニ距離アルコトナシ諸君亦タ思フヘキカナト君亦タ思フヘキカナト

言語ノ段落來ルヤ否俄然愕一愕シタル音調コテ大呼スル者アリ即チ「セー、サー、マストン」氏ナリ曰ク惑星ト地球ト兩間ニ距離ノ存在スルナキヤ

時ニ演舌者ハ先キニ説キ入ラントシテ其主旨ヲ考フル處ニ突然雷鳴ノ如ク大呼セラレタルニ因リ驚愕ノ餘リ忽チ誤ツテ高座ヨリ土地ニ墮落セントセシガ僅カニ足ヲ固クシテ以テ危難ヲ逃ル、トサ得タリ然レ

此若シ不幸ニシテ墮落シタラシニハ彼雄辨者ノ今迄舌ヲ極メテ距離ノ虛無ナルヲ説キタルモ足ヲ挫傷シテ以テ始テ距離ノ高坐ト土地ノ兩間ニ於テ虛無ナラサルヲ悟リタルナルヘシト聽衆ハ口ニ一言ヲ出サスト雖モ衆ガ眉目口鼻ノ間ニ於テ心裏ニ演舌者ヲ嘲ケル所ノ眞影ヲ寫シ出タセリ

演舌者ハ又タ聽衆ノ我ヲ嘲ケルカ如キ狀アルヲ知ルト雖トモ尙ホ泰然貌ヲ整ヘ聲ヲ強クシ説テ曰ク聽衆ノ諸彦ヨ今我カ説ク所ノ如ク地球ト月球ノ距離ニ付テハ敢テ苦慮スヘキトコアラヌ唯一箇ノ些事ノミ亦タ顧ミルニ足ラス必ス今ヨリ二十年ノ星霜ヲ經過セサルモ我カ地球上ノ人民半ハ彼月球ニ旅行シテ未聞

未見ノ奇事ニ逢フナルヘシ而シテ博識多聞ノ諸彦ヨ
 藁爾オノタル小子固ヨリ高尙ナル疑問ニ答フルニ足ルノ
 知識ナキヲ以テ或ハ疑問ノ出ツルニ當テ其解シ難キ
 ニ困ンテ之ヲ解釋答辨スル能ハカルハ常ニ自ラ熟知
 スル所ト雖モ小子生末魯鈍ニシテ預メ深ク省慮スル
 ナク諸彦ガ我說話ヲ聞カントスト云フヲ聞クヤ欣躍
 極リナク覺ヘス此高坐ニ上ツテ以テ諸彦ノ高識ヲ濱
 冒スルノ罪ヲ負フニ至レリ嗚呼今將々之ヲ如何セン
 諸彦幸ニ我カ淺劣ヲ憐ンテ問フ所アラハ余モ亦々試
 ミニ我カ及フ所ヲ盡シテ以テ其問ニ答ヘンノミ
 譯者曰ク本卷末段ノ第十九回ハ未ダ其半ニ至ラス尙ホ
 此ヨリ聽衆ト演舌者ノ間ニ議論紛々甲問ヒ乙答ヘ其間

題答議或ハ借カイヤク籠ニ屬スル者アリ或ハ奇怪ト呼フヘキ者
 アリ必ス識者ヲシテ始メテ本編ノ妙境ニ入ルヲ覺ヘシ
 ムヘシト雖ヒ紙數限リアルヲ以テ之ヲ後編ニ讓ル

明治十二年十二月廿四日版權免許
同 十三年三月三十日別製本御届
同 十三年十一月 出版

譯述人

高知縣士族 井上勤
大坂西區江戶堀上通二丁目十五番地寄留

出版人

山口縣士族 黒瀬勉二
大坂東區本町四丁目十五番地寄留

發賣人

大阪北久寶寺町四丁目
三木書樓

同

同本町四丁目
書藉會社

賣弘所

東京本石町二丁目
江島喜兵衛

同

同馬喰町貳丁目
石川治兵衛

同

同南鍋町壹丁目
うさぎや誠

米國ジユルスベルン氏著

日本井上勤譯

卷之五

九十七時
二十分間
月世界旅行

版權免許
二書樓發兌

九十七分時月世界旅行第六卷

米國シユールス、ベルン氏著

日本井 上 勤 譯

第十九回之續

却説テ前卷ノ末段ニ説キシ如ク演舌者が傍聴人ノ疑問ニ
對フベキ旨ヲ演ベ畢ハリタレハ砲銃會社長「バルビケーン」
氏ハ演舌者「ミチエル、アイアソン」氏が自ラ万衆ノ疑問ヲ一人
ノ身ニ引受ケ之レガ答辨ヲナサントスルノ勇氣凜然タル
ヲ見テ且ツ喜ビ且ツ愛シ演舌者が必ズ疑ヒモナク腦裏ニ
記臆シタルナラント思ハル、所ノ實驗上疑問ヲ出ダシ其
心氣ヲ發揚シ以テ氏ヲシテ快然ヲラシメント欲シ忽然起
立シテ清音ヲ發シ先ツ「余レ方ニ問フ所アラントス」ノ一言

二 子以テ注意ヲ與ヘ問フテ曰ク

我カ新交ノ良友ヨ月世界及ヒ惑星ニハ人間ノ屬之レ
ニ栖住スルヲ得ルト思考スルヤ

雄辨ナル演舌者ハ喜色ヲ帶ビ微笑シテ答テ曰ク

社長閣下ヨ閣下ハ今哉爾タル小子ヲ樂ツルナク幸ニ
小子ニ問フニ一大疑問ヲ以テス小子ノ幸榮何ソ之レ
ニ如クモノアランヤ然リト雖モ抑此疑問タルヤ「アリ
ユーター」氏「スウエーデンボルグ」氏「ベルナム」氏、
「ド、
「ソント、ピユール」其他諸氏ノ如キ鴻儒碩學モ未ダ其蘊
奧ヲ究ムル能ハズ固ヨリ吾カ不學淺識喙ヲ其間ニ容
ルベキコ非スト雖モ些少其思考スル所ヲ述ヘン此
疑問ヲ究理學者ノ説ク所ニ從フテ見解ヲ下スニ天地

問一トシテ不用ノ物形ナシト云ハザルヲ得ザレバ其
理ヲ推スニ彼世界ニ於テモ人類ハ必ス栖住シ得ルベ
シ若シ栖住シ得レバ已ニ人類ノ栖住スルアルベシ
社長答テ曰ク

此疑問タルヤ未ダ確トシテ是ニ明辨確答ヲ下スモノ
ナシ。亦タ定理ノ依ルベキナシ故ニ唯ダ單ニ人ノ思考
ヲ引カンガタメニ「彼ノ月世界及ヒ惑星ハ人類ノ栖
得ベキ場處ナリヤ」ト問ハザルヲ得ズ是ヲ以テ余ハ吾
カ自信スル所ニ因テ一箇獨斷ノ説ヲ定メ月世界及ヒ
惑星ハ人類ノ栖住シ得ヘキ處ナリト

三 「ミチエル、アーダン」氏聲ヲ發シテ曰ク
余モ亦タ勿論人類ノ栖住シ得ル所ナルヲ思考セザル

ニアラズ

右演舌者「アーデン」氏ト社長「バルビケーン」氏ガ答論中聽衆ハ社長ガ此疑問ヲ出ダセシヨリ甲一説ヲ出ダセバ乙之ヲ駁シ丙他説ヲ吐ケレバ丁之ヲ論シ論議囂々恰モ鼎ノ沸クガ如ク到底其説ノ多數ハ月世界及ヒ惑星ニハ人類ノ栖得ヘキモノニアラザルヲ主張スルナリ其説ニ曰ク

若シ人類ノ彼ノ世界ニ栖住セントスルニハ現今吾人々間ガ天授シタル所ノ有機ニ付キ余程變更セザレバ能ハザルモノアルト判然トシテ見ルベシ彼ノ惑星ノ如キ太陽ヲ隔ツルノ距離ニ因リ若シ人類ノ栖住シタラシムルニハ此處ニ於テハ生ナガテ大熱力ニ表ラレ彼ノ處ニ於テハ大寒威ノ爲メニ凍死セザルヲ得ザルノ道理ナリト

理ナリト

「ミチエル、アーデン」氏答テ曰ク

余ハ専ラ社長「バルビケーン」氏ガ疑問ニ答ヘント欲シ心此ニアラザレバ聞ケドモ聞ヘズ今諸君ガ論議紛々タルヲ願ミザリシハ皆ナ是レ余ガ罪ナレバ之ヲ諸君ニ謝シ以テ又タ余ガ意見ヲ諸君ノ反對説ニ對シテ説ク所アラントス請フ少焉ク此會場ヲシテ人ナキカ如ク静寂ナラシメヨ今諸君ノ論スル所ノ大意ヲ聞クヲ得タレバ余之ニ思考ヲ下スニ其説全ク理ナシト云フニアラザレドモ未ダ一ヲ知テ十ヲ知ラザルノ説ニシテ余方ニ其論説ニ向フテ一撃ヲ試ミ彼世界ニ人類ノ栖住ヲ得ヘキヲ主張シ以テ諸君ガ迷夢ヲ覺セント欲

スルナリ夫レ余ハ窮理學者ニアラスト雖モ曾テ其端緒ハ勘シテ知ル所ナキコアラステ彼ノ究理家ノ説ニ據レバ太陽ニ接近シタル諸惑星ニハ各々些少ノ温素アリ其温素軌道上回轉ノ際他ノ太陽ヨリ遠隔シタル惑星ノ多キ温素ト運轉力ニ因テ相混和平均シ熱力平均ヲ得テ以テ吾人ノ如キ有機體ノ人類ヲ栖住セシムルニ適シタル温和ノ温度トナルナリ又タ余ヲシテ真正ノ究理學者ナラシメバ將コ云フントスル所アリ已ニ究理諸名家ノ説キニ如ク造物主ガ此地球上ニ於テ動物中ニ別種ノ生活、状態ヲ有スルノ物アルヲ示シタル例多シ即チ彼ノ魚屬ノ如キ他ノ動物ガ全ク住ミ得ザル所ノ媒物中ニ悠々活動シ又彼ノ水陸共ニ并住セ

ル動物ノ如キ其理甚タ解シ難シ又海中ニ栖住スル一種動物中ニ實ニ驚愕スヘキ深サノ下ニ其生活ヲ保テ得テ大氣五十及至六十ノ壓力ニ均シキ海水壓力ニ堪ヘ其身体ニ些少ノ損害ヲ蒙ラザルモノアリ又種々ノ水中ニ住ミタル細虫ノ屬アリ全ク温度ノ如何ヲ感スルナシ或ハ洩膿セル大熱湯ノ如キ温泉中ニ游泳シテ固々焉タルコト尋常水中ニ魚ノ生活スルガ如キモノアリ或ハ北氷海ノ如キ固凍シテ石ニ均キ氷ノ下ニ活動シテ洋々焉タルモノアリ斯クノ如ク彼ノ造物主ガ種々ノ動物ヲ生活セシムル手段千態万狀ニシテ固ヨリ其理ナキコアラザルベケレド吾人々間カ思考ノ及ハザル所夥多瓜指ニ遍ナケレバ彼ノ熱力ニ關シテ感

星中ニ動物ノ住ニ得ズト云ヘル説ハ必ス非ナリト云
 リザルヲ得スト余ヲシテ化學者ヲラシメバ將ニ云フ
 所アラントス彼ノ雷石ト稱スルモノ、如キ判然吾人
 ガ栖住セル此地球上ノ外ニ創造セラレシモノアリ之
 ヲ分析スルニ其物質中ニ少量ノ炭素ヲ含蓄スルコト
 明白ニシテ其物質ノ索性クルヤ「ライヘンバーフ」氏ノ
 精細試験ニ據レバ其根原ハ必ス有機体ナリシモノニ
 シテ必ズ生命ヲ有スル動物體ナリシモノナリト又タ
 余ヲシテ神學者ヲラシメバ將ニ云フ所アラントス夫
 レ彼ノ「セイント、ポール」ノ説キシ所ニ據レバ神ノ人類
 ナ救助スルノ巨大ナル慈心ハ豈ニ吾人が地球上ノミ
 ナラシヤ此蒼穹ニ散布シタル万世界上何ノ世界ヲ論セ

オ皆ナ悉ク怡モ到ラザル所ナリト然リト雖不幸ナル
 カナ余ハ醫學者ニアラス化學家ニアラス究理學者ニモ
 アラス又タ倫理家ニモアラズ故ニ余ハ至ク上帝ノ此
 宇宙間ヲ調理スル所ノ大則ヲ知ルニ由ナク唯冥々ノ
 中ニ想像シ下スロトナレバ彼ノ月世界及ヒ惑星ノ人
 類ヲ栖住セシムルニ適スルヤ否ヤハ之レニ答フニ確
 然タル答辭ヲ得ザルナリ余レニ之レガ答辭ナキヲ以
 テ余汲々トシテ之ヲ求ムルノ急ナル所ナリ

演會者ハ右ノ事ヲ説キ終ハルヤ吾ヤ聽衆ノ狂叫亂呼ヲ
 其喧譁ナル亂軍麻ノ如ク伏屍山ヲ爲スノ戰時モ斯クノ如
 シ聞譯ナラザルベシト思ハル、程ニシテ「ミチエ」ル、アイ
 シ「氏」ガ説ニ駭撃ヲ試シント欲スル人アリ大呼シテ之レヲ

説クモ他ノ叫音呼聲ニ亂サレテ人ノ聞クナケレハ遂ニ口
ヲ徹シテ語ヲザルニ至レリ暫クアツテ亂呼漸ク止ニ狂呼
稍ヤ罷ンテ亦ク人ノ説ヲ發スルナキヲ以テ左ノ言ヲ演ヘ
タリ曰ク

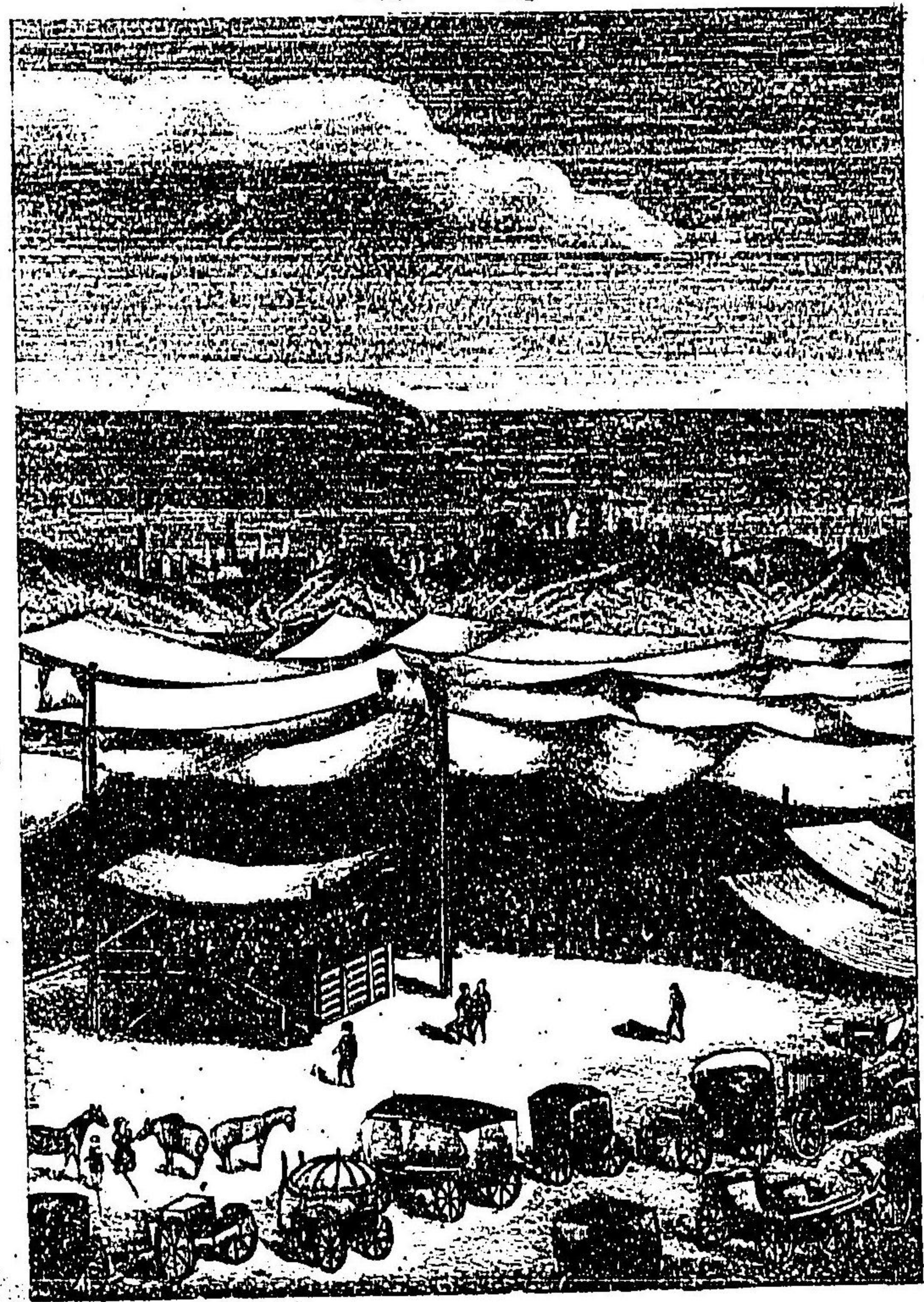
聽衆ノ諸彦ヨ今諸彦ノ了知セル如ク余ノ不學淺知ナ
ルヲ以テ社長ガ深ク疑問ニ答フルヲ得ス只僅カニ吾
ガ思フ所ヲ畧説シタリ然ルニ余カ今亦タ説カントス
ル所ノ一事ハ前問題ナル惑星中ニ人類ノ栖住シ得ル
ヤ否ヤト云ヘルカ如キモノニアラズ乞フ虚心平氣以
テ我カ説ク所ヲ聞ケヨ余ハ將ニ惑星ハ人類ヲシテ栖
マシムルベキ場所ニアラズト云ヘルノ僻説ヲ固守セ
ル諸君ニ對シテ一言ヲ呈セントス諸君ヨ君等ハ此地

球ヲノミ最良此上ナキ世界ト思慮スルカ如キ細小ノ
精神ヲ有シテ以テ充分理ニ背戾セザルモノトナスカ
諸君モ熟知セルカ如ク此ノ吾人カ栖住セル地球ハ只
ク一箇ノ衛星ヲ保チ「ジュピター」「ウラニユス」「サタアン」
「チプテューン」ノ如キ各々數箇ノ衛星ヲ有シ亦タ之ヲ
我が地球ヨリ賤シムベキモノトナスノ理ナシ抑我カ地
球タルヤ其レカ軌道ノ平面上ニ軸ノ傾向ヨリシテ晝
夜長短ノ差ヲ生シ以テ吾人ヲシテ不快ナラシメ又タ
其傾向ヨリシテ四季時候ノ差ヲ起シ常ニ快カラシメ
ス此ノ我々カ住マヘル不幸ナル大球ノ表面ニ於テ時
トシテハ甚ダ寒威ニ堪ヘス又タ時トシテ熱力灼クカ
如ク苦惱セシム之ヲ約言スレハ冬時ハ吾ヲ凍死ニ垂

ントナシ夏時ハ吾人ガ頭腦ヲ衰ルカ如クナスナリ而
 シテ尙ホ不幸ナルハ誠ハ「リロウマチス」ト云ヘルアリ
 咳嗽ト云ヘルアリ喘息ト云ヘルアリ癩病ト云ヘルア
 リ其病種ノ萬異千差皆ナ吾人ヲ苦シメ或ハ生活スル
 ナ欲セスシテ寧ロ早ク鬼籍に入ルヲ望ムノ心ヲ起サ
 シムルナキニアラス然レドモ除ヘバ彼ノ「シユピタア
 」星ノ平面ノ如キ回轉ノ際其軸ノ傾斜ハ只ク些少ニ
 シテ若シ住民アヲバ不斷各帶ニ一線ノ氣候温暖ニ樂
 シ快然トシテ日月ヲ消過スヘシ其氣候タルヤ此處ハ
 常ニ草木春ニ花サキ彼ノ處ハ常ニ夏天灼シク如シ甲
 ノ分部ハ恆ニ木葉秋ニ翻ヘリ乙ノ分部ハ不斷飄遊冬
 ナ守ラシム「シユピタア」星ノ各住民ノ其春色ヲ愛ス

大阪 豊泉堂 銅刻

大分會圖



ルモノハ春季ノ地方ニ至リ其夏天ヲ好ムモノハ夏候
 ノ帶ニ移リ其秋風ヲ好ムモノハ秋季ノ地方ニ轉シ其
 寒氣ヲ避テモノハ寒帶ニ行キ皆々各自其好ム所ニ從
 テ居住スルヲ得其身体ニ適スルノ氣候ヲ選ビ亦々大
 幸ノ極ト云フベシ諸君今吾カ勸ク所ヲ聞ケル必ズ「マ
 ユピタア」星ノ我地球ニ假レルノ處キヲ知り斯クノ如
 キ大ナル助ケヲ受ケ又ク體々ニキ快活ナル状態ヲ以
 テ之ヲ推ストキハ斯ノ如キ幸ナル世界ニ栖住セル人
 類ハ吾人カ如キ不幸ナル状態ニ落ラセル人間ヨリハ
 其劣智、筋力、等百般ノ劣質ヲ必ズ亦々匿レルノ途カナ
 ルヲ識ラン然リト雖モ先ツ他事ハ之ヲ措キ吾人ガ「マ
 ユピタア」星ノ如キ愉快完全ニ達セントスルニハ唯々

一事ノ緊要欲クベカラサルアリ即チ回轉中地軸カ軌道上ニ傾斜スルノ可成的些少ヲ要スルナリ
 演舌者ハ右ノ事ヲ既キ畢ハルヤ聽衆ハ夏天白雨ノ前ニ忽然大雷ヲ發スルカ如ク一聲ニ大呼天地ヲ震動セシメ其中人アリ大ニ呼ンテ曰ク

若シ吾人カ力ノ及フ所ナラバ余等ヲシテ力チ一ニシ以テ一大機械ヲ發明シ此地軸ノ回轉方法ヲ改良セシメヨ

語未タ終ラザルニ賞贊ノ聲烈然亦々雷ノ如シ右ノ語ヲ發セシハ誰ナルカ其名ヲ米國ニ蘇カシツル一大滑稽家ナル一ゼイナリ、マストン氏ナリ元來米國人ハ事ヲ企ツルノ性質ナレハ若シ眞實ニ假令ヒ少シナルモ地軸ノ回轉ヲ改良ス

ルノ方法アルノ理ヲ發見シタラシコハ必ス千變万化ノ工夫ヲ用ヒ竟ニ地球ヲ扛擧シテ之ノカ地軸ノ傾斜ヲ調理スヘキ巨大ノ槓杆ヲ製造スルニ至ルヘシ然レトモ吾人ハ未ダ其理ノアル所ヲ發見スル能ハザレバ米洲人ノ機械學ニ長タルモ亦タ如何トモスルニ由ナシ

第二拾回

月球關係之討論

茲ニ説ク「アイアソン」氏カ演舌ヲ終ハルヤ否ヤ衆庶ノ人氣沸クカ如ク狂スルニ似タリシカ漸々鎮靜ニ至リ時ニ聽衆ノ中ニ強音ヲ發シテ左ノ言ヲ云フ者アリ曰ク

雄辨ナル演舌者ヨ今君ノ說話セル所ヲ以テ幸ニ許多ノ想像説ヲ了知スルコトヲ得タリ故チ以テ君カ本旨

ナル月世界旅行ノ旨主ニ返リ疑問ヲ實地上ニ辨解ス
ルコトアレヨ

時ニ鵬衆ハ此ノ一言ヲ覆セシ人ハ雖レナリヤト皆ナ目ヲ
聲ノ來リシ方向ニ注キテ此ノ人物タルヤ其形軀肥タル
ニアラス又ク瘦ルニアラス寧ロ小ナリト云フベシ其鬚
ハ羚羊ノ如ク所謂米國ノ「エアヤ」髯ナリ此ノ衆諸波チナ
スノ動搖ニ因テ漸々迫ンテ衆ノ前面ニ出テ竟ニ鵬衆カ先
キニ望リ目ヲ強ク凝シテ「アイダン」氏カ顔色ニ注意シ
右ノ一言ヲ覆セテ後黙然云ハズ又ク靜立シテ動カズ鵬衆
カ自己ノ一言ヨリ奮起シテ動搖スルヲ願ヒズ唯ク自己ノ
一言ニ付キ演舌者カ何ニカ云フ所アルベシト待テ居タリ
シカ何ノ一言ヲ聞クナキテ以テ亦ク俄然聲ヲ強クシテ再

ビ前ヘノ同言ヲ云ヒ加フルニ左ノ一言ヲ以テセリ曰ク

我等カ此ノ會場ニ來リシ所以ハ我カ地球ニツイテ談
論セント欲スルニアラス時リ月世界ノ一事ニ就キ百
復論議スル所アラソトスルニアラズヤ

「ミチエル、アイダン」氏歡喜ノ聲ヲ出シ答ヘテ曰ク

君曰君カ今云フ所ノ事實ニ然リ論議支路ニ入テ本路
ヲ失フナリ余等將ニ本旨ニ歸テ月世界ノ事ヲ談セン
トス

人アリ曰ク

君曰君ハ我カ地球ノ衛星ニ人間ノ栖息スヘキヲ説キ
タリ若シ衛星ニ人間ニ住マシメバ人類ノ屬必ス
全ク氣息スルコトナクシテ生活セザルヲ得ス何ゾト

ナレバ月世界ノ平面ニ於テ空氣ノ如キ小分子ノ物質
アルナキヲ以テナリ余此ニ君ノ爲メニ一言ヲ呈スル
モノハ我カ老婆心ニシテ少シク君ヲ警戒スル所アラ
ントス

「アーデン」氏ハ奮然トシテ赤色ノ頭髪ヲ振フテ自カラ説ク
所ノ本旨ニ付キ彼ノ人ト將ニ一大爭論ヲ起スノ勢ナリシ
カ同氏ハ忽チ目ヲ銳クシテ右ノ人物ヲ見テ曰ク

汝ノ云ヘル事ノ如ク月珠中ニ一ツノ大氣ナレトヒン
ニ此レハ只ク假定ニ屬スルモノナレハ其確實ナル説
ノ如キハ誰レノ之ヲ任トシテ定ムヘキ所ナリヤ

答ヘテ曰ク
學術ニ違スル所ノ人任シテ之ヲ爲サ、ルベカラズ

問テ曰ク

實ニ然ルカ

答ヘテ曰ク

實ニ然リ

「ミチエル、アーデン」氏答ヘテ曰ク

君ヨ余ハ眞ニ學術ヲ知ル所ノ藝術家ハ深ク之ヲ愛ス
ト雖モ表面ニ藝術家ト飾リ胸中無一物ナル今世流行
ノ偽學者ノ如キモノハ余レ之ヲ賤ニ且ツ之ヲ惡ムコ
ト蛇蝎ノ如シ

人アリ問テ曰ク

君ハ學術ヲ知ラサル藝術家ヲ知ルヤ否ヤ

答ヘテ曰ク

余ノ素ヨリ之ヲ知レリ彼ノ佛蘭西國ニ於テ學者ヲ以テ自ラ師シタル先生ニシテ算術上ヨリ論ズルトキハ鳥ハ飛翔シ得ルノ理ニアラスト云ヒ又シ他ニ論者ヲ以テ人ノ上位ヲ占メタルモノト自詠シタル人物ニシテ論理上ヨリ推理スレハ魚ハ決シテ水中ニ游泳生ニスイ活シ得ルモノニアラスト嗚呼之ヲ痴チノ極ト云ハソカ將タ狂ト云ハソカ余ハ斯ノ如キ種屬ノ人歟ト共ニ睦ヲ交ユルヲ欲セス亦タ共ニ語ラント欲スルモ語ルヘキノ事ナシ余レ今諸君カ夫レハ虚言ナリ作説ナリト云フヲ得サルカクメニ彼ノ偽學者ノ姓名ヲ此ニ顯アヲハセシトス

人アリ演舌者ヲ賤シム爾勢ニテ呼ンテ曰ク

故人ノ不學ヲ嗚スナカレ汝ハ學ヲ脩メス又タ術ヲ學ハス何ヲ以テ學術ニ係ル問題ニ答フルヲ得ベケン
「ア―テン」氏答ヘテ曰ク

余ハ素ヨリ不學無識一事ノ知ルナシ然レトモ危キ險ケンヲ恐レズ此ノ軟弱ナル肉身ヲ以テ大山ニ當リ大海ニ敵セントスルノ勇アルノミ

演舌者ヲ賤シミタル人亦タ大嗚ンテ曰ク
故ノ勇ハ暴虎馮河ノミ痴ト云ソソカ狂ト云ソソカ
演舌者ハ肅然容貌ヲ改メテ曰ク

聽衆ノ諸彦ヨ余ハ他ノ學術如何ヲ願ヨルノ意思ニアラズ唯月世界ニ旅行スルノ一事ヲ成功セハ我事終ハル何ソ他事ヲ喋々論辨スルニ足ラン

社長「バルビケーン」氏及ヒ同盟社員ハ専ラ目ヲ演舌者ニ注
 キ砲銃會社ノ大業ニ付演舌者カ孤身ヲ以テ万衆ノ議論ニ
 敵シテ彼ノ大業ヲ補助スルノ巨大ナル勇氣ヲ賞嘆シ居タ
 リキ時ニ社長ハ獨リ彼ノ演舌者ハ全ク異邦ノ人物ニシテ
 誰トシテ之ヲ知ルモノナク自ラ勇氣ニ趨テ議論遂ニ變シ
 テ爭門トナリ其身ヲ傷害スルカ如キノ結果ヲ生スルモ計
 リ難シト思ヒ恒ニ演舌者ノ身体ニ注意シタリ今ヤ會衆ノ
 人氣方向ヲ變シテ月世界旅行ノ一點ニ向ヒ其ノ大危険ナ
 ルヲ思ヒ其成功ニ付或ハ信シ或ハ疑ヒ衆庶ノ顔色恰モ惱
 メルカ如シ

聽衆ノ反對論者曰ク

演舌者先生曰余カ知ル所ニ據レバ月球ノ周圍ニ大氣

ノアラザルコトヲ證明スルニ足ルノ證據ハ夥多ナリ
 ト云フベシ其證據ニ因テ理ヲ推サントモ若シ月球ニ大
 氣ノ存在セルコトアラバ其大氣ハ全ク地球ノ引力ニ
 因テ地球ノ爲メニ奪ヒ去レザルヲ得ス余尙ホ他ノ證
 據ヲ示シテ以テ其理ニ屈セザルヲ得ザラシメントス

「アーヴン」氏曰ク

請フ君カ好ム所ノ證據ヲ引イテ之ヲ論シ汝ノ胸裏ヲ
 盡シテ之ヲ空フスベシ

反對論者曰ク

君曰君モ素ヨリ知リ給フ如ク光線ナルモノハ大氣ノ
 如キ謀物ヲ横截スルトキハ直線ノ光線屈曲シテ方向
 ヲ變更スルモノナリ故ニ星アリ月球ノ背後ニ來ルト

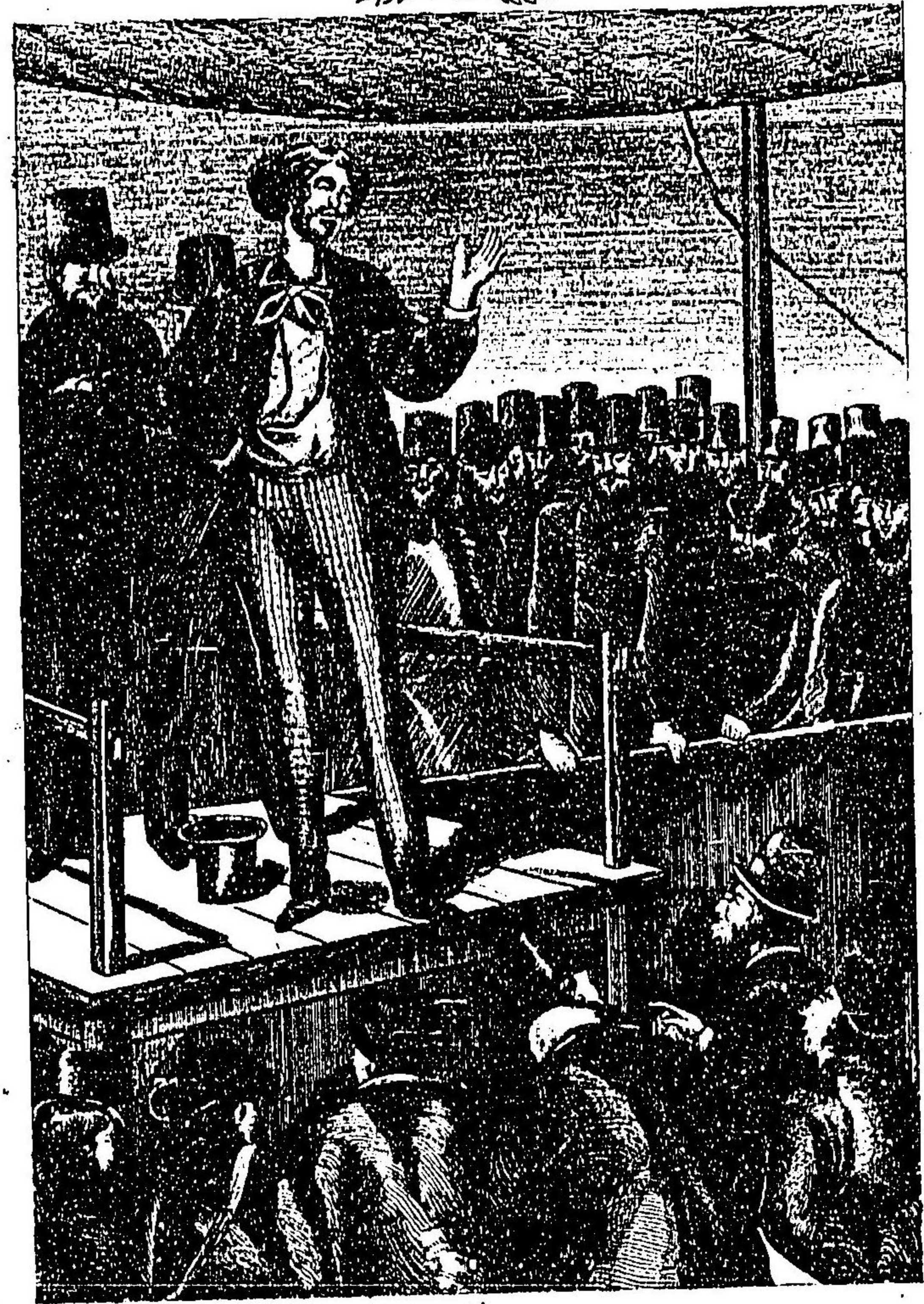
キ月球平面ノ線ヨ目ヲ注クニ星ヨリ來ル光線月球
 ノ縁端ヲ直過シテ些少ノ曲屈シテ方向ヲ變シタルヲ
 モ見ス是ニ因テ之ヲ觀レハ大氣ノ如キモノアツテ月
 球ノ周圍ヲ圍マザルコト昭乎トシテ證ヲ指スカ如シ
 「アーバン」氏曰ク

今君カ説ク所ハ其理確然カナルモノ、即シ眞ニ學術
 ナリトシテ徒モ君ノ議論ニ敵シ得ザルハ然レドモ余
 ニ於テ未ダ之ヲ現ラズ何ソトナレハ是レ率強附會ノ
 説ナレハナリ君ハ頗ル論客識士ナリ爾レ余カ爲メニ
 月世界上ニ於テ噴火山ノ存在スルナシトスルヤ否ヤ
 ナリ説シヨ

論者答ヘテ曰ク

大阪響泉堂印刷

圖ノ舌演氏ンデア



存在セリ然レドモ如今噴火スルコアラス

又々問フテ曰ク

然ラハ其噴火山ハ曾テ一時噴火スルコトアツテ今唯
ク其痕跡ヲ殘スモノナルヤ

答テ曰ク

實ニ然リ然レドモ其噴火スル爲メ切要ナル酸素ヲ有
シ其破裂噴火セル痕跡ヲ證據トシテ大氣ノ存在ヲ證
明スルニ足ラス

「アイアソ」氏答ヘテ曰ク

今一步ヲ進メ唯々理論ニノミ傾クトキハ或ハ論ノ局
ヲ結フニ由ナキノ恐アリ暫ク其理論ヲ措テ之ヲ實驗
上ノ談話ニ交換セントス紀元千七百十五年「ルビーニ」

及ビ「ハルレー」ト云ヘル二人ノ天文學士アリ同年五月
第三日ノ月蝕ヲ觀察シテ實ニ奇々名狀スベカラザル
ノ火光ヲ月球中ニ發見シタリ此學士等ハ彼ノ激々々
ル火光ヲ以テ月球上ノ大氣ヨリ生シタル電光ナリト
確定セリ

論者答へテ曰ク

紀元千七百十五年ニ於テ「ルビー」及ヒ「ハレー」氏ナル
二人ノ天文學士ハ月球ノ現象ヲ觀察シ誤リ此ノ吾人
カ栖息セル地球上ノ木氣ヨリ發生シタル現象ヲ以テ
月球ノ現象トナスヲ晒ハレ當時己ニ其非ナルユトハ
他ノ學士カ證明スル所タリ

「アーデン」氏答へテ曰ク

余亦タ云フ所アリ彼ノ千七百八十七年ニ當リ「ハーセル」氏ハ月球ノ表面ニ於テ無數ノ火光点アルヲ發見セリ是レ世人ノ洽シ知ル所ニシテ疑フ可ラザルモノナリ君等未タ之ヲ知ラズヤ

論者答テ曰ク

然リ然リ然レドモ君ハ未ダ同氏ノ實驗ニ付注解ヲ下サズ余之レニ注解ヲ下サンニ「ハーセル」氏ハ氏カ發見ノ火光ヨリシテ必ス月球ニ空氣ノ不可缺ナルノ理由ヲ推論シタルコト未ダ曾テ我カ耳朶ニ到ラズ且ツ「ハーセル」氏及ヒ「マエドフ」氏ハ有名ナル月球究理ノ兩大家タリ然ルニ兩氏共ニ月球ノ表面ニ大氣ノ虛無ナルヲ説キ其說兩ナカラ符節ヲ合スカ如シ

時ニ聴衆ハ二人カ反覆ノ討論愈出テ愈妙ヲ以テ人氣益沸
シカ如ク群衆ノ動搖恰モ大海ニ狂瀾ノ沸シカ如ク濫トシ
テ聲ヲ發スルモノナキカ如クナレドモ自カラ會場喧鬧罷
マス

「アーデン」氏答テ曰ク

余ヲシテ尙ホ歩ヲ進メテ切要ナル實事ニ論入セシメ
ヨ彼ノ著名ナル熟達ノ佛國天文家「エム、ロー、セツ、ダ」
氏ハ紀元千八百六十年七月十八日月蝕ニ當リ新月
ハ尖リタル處ヨリ凹ミタル部ニ至ルマデ月球ハ大氣
ヲ横截シテ來タル太陽光線ノ曲折ニ因リ明カニ之ヲ
究ムルヲ得ヨリト

余實驗上ノ適例ハ此等ノ外ニ亦タ記憶セルモノナシ

問フテ曰ク

今君ノ説話セル所ハ眞ニ確定シタル實事ナルヤ

答テ曰ク

其確實ナルコト寸毫ノ疑フヘキナシ

今ハ雄辨演舌大家カ説キシ所ニ一言ノ間然スルモノナキ
ニヨリ恰モ大將カ軍ニ大勝利ヲ得テ兵士ノ歡聲ヲ發スル
カ如ク呼聲喧囂會衆ノ大動搖即チ人海ノ波瀾ト云フベシ
時ニ「アーデン」氏ハ反對論者ノ口ヲ徹シテ言フ能ワザラシ
メタル大勝利ヲ欣フノ色ナク亦タ徐々説キ出タシテ曰ク

聴衆ノ諸君ヨ月世界ノ表面ニ大氣ノ存在ヲ非議スル
ノ人アリト雖是レ全ク誤認ノ極ニシテ亦タ共ニ語ル
ニ足ラヌ素ヨリ該世界ノ空氣ハ多分必ス稀薄ナルモ

ノナルベシ然レドモ今世ノ名家大儒モ其存在ヲ主張
シテ誰レノ之レニ反對論ヲ出ダスナシ
人アリ問フテ曰ク

平地ニ於テ大氣ノ稀薄ナルコト汝ノ云ヘルカ如クナ
ラハ大山ノ嶺ハ必ス空氣ナカラン若シ空氣ナキトキ
ハ人山嶺ニ登ルヲ得ス

「アーデン」氏微笑シテ答テ曰ク

實ニ然リ大氣ハ只々山間ノ平地ニ止マリ其高サ四五
百尺ヲ超過セス

問フテ曰ク

若シ平地ニ於テ君ノ説ク如ク甚ク稀薄ナリトセハ時
トシテハ甚稀薄ナルコト全ク空氣ナキニ均シキカ如

キコトアルベシ故ニ彼ノ月世界ニ到ルモ甚ク此ニ預
備注意セザルベカラズト思ハル君以テ如何ントス

「アーデン」氏答テ曰ク

今先生ノ云ヘル所誠ニ然リ然レドモ彼ノ世界ノ空球
必ス人間ヲ養フニ足ルベシ若シ一旦時變ニ因テ非常
ノ稀薄トナルカ如キ不幸ニ逢ハ、余ハ將ニ一大節儉
ノ方法ヲ知レリ是レ何ゾヤ他ナシ特別不可缺ノ時機
ヲ除キ其他ハ全ク呼吸セザラントス

聴衆ハ皆ナ失笑シテ聲天地ニ轟キ演舌者モ爲メニ鼓幕ヲ
破ラレタルカト疑ハル、ハカリニテ暫ク静立シテ云ワ
ズ時ニ忽然トシテ「アーデン」氏ハ又説キ出ダシテ曰ク

諸君ニ我カ既ニ討論シタル所ヲ以テ別ニ非議スルコ

トナキヲ以テスレハ諸君ハ月世界ノ表面ニ大氣ノ存在セルコトヲ同意シタルナルヘシ然ルトキハ水ノ必ス此ニ存在スベキヲ保證スベシ若シ水ヲシテ必ス存在セシメハ余レニ於テ幸福ノ最大ト云フベシ且ツ聽衆ノ反對論者口請フ余ヲシテ尙ホ他ノ要事ヲ云フシメヨ我等ハ只ク月球ノ一表面ヲノミ知ルヲ得タリ此ノ表面ニ於テ空氣ノ少量ヲ有シ他ノ吾等ニ見ヘザル表面ニ於テハ必ズ多量ノ大氣ヲ含蓄スベシ

人アリ問フテ曰ク

他ノ表面ニ於テ多量ノ空氣アリトハ如何ナル道理ナルヤ

答ヘテ曰ク

抑其理タルヤ地球引力ノ作用ニ因テ月球ハ雞卵ノ形トナリ我等ハ其雞卵ノ尖リタル點ヲ見ル而テ「ホーゼン」氏カ測算ニ依テ重力ノ中心ハ我等カ見ル所ノ他ノ半球ニ在リト云フ夫レヨリシテ推ストキハ空氣モ水モ兩ナカラ其多量ヲ該半球ニ存セサル可ラズ

人アリ大呼シテ曰ク

實ニ唯想像架空ノ說ナルノミ

「アイデ」氏答テ曰ク

何ソ然ラノ是レ純粹ノ理論ト云ヘシ其源因ヲ機械ノ定則ニ發スルヲ以テ余之ヲ非議スルヲ得ズ然レドモ我等カ此ニ生活ヲ得ル如ク彼ノ月世界ニ於テ生命ヲ保存シ得ルヤノ問題ニ至リテハ之ヲ聽衆ノ諸君ニ質

トナキヲ以テスレハ諸君ハ月世界ノ表面ニ大氣ノ存在セルコトヲ同意シタルナルヘシ然ルトキハ水ノ必ス此ニ存在スベキヲ保證スベシ若シ水ヲシテ必ス存在セシメハ余レニ於テ幸福ノ最大ト云フベシ且ツ聽衆ノ反對論者ニ請フ余ヲシテ尙ホ他ノ要事ヲ云ワシメヨ我等ハ只ク月球ノ一表面ヲノミ知ルヲ得タリ此ノ表面ニ於テ空氣ノ少量ヲ有シ他ノ吾等ニ見ヘザル表面ニ於テハ必ズ多量ノ大氣ヲ含蓄スベシ

人アリ問フテ曰ク
他ノ表面ニ於テ多量ノ空氣アリトハ如何ナル道理ナルヤ

答ヘテ曰ク

抑其理タルヤ地球引力ノ作用ニ因テ月球ハ雞蛋ノ形トナリ我等ハ其雞蛋ノ尖リタル點ヲ見ル而テ「ホーゼン」氏カ測算ニ依テ重力ノ中心ハ我等カ見ル所ノ他ノ半球ニ在リト云フ夫レヨリシテ推ストキハ空氣モ水モ兩ナカラ其多量ヲ該半球ニ存セサル可ラズ

人アリ大呼シテ曰ク

實ニ唯想像架空ノ說ナルノミ
「アイア」氏答テ曰ク

何ソ然ラン是レ純粹ノ理論ト云ヘシ其原因ヲ機械ノ定則ニ發スルヲ以テ余之ヲ非議スルヲ得ズ然レドモ我等カ此ニ生活シ得ル如ク彼ノ月世界ニ於テ生命ヲ保存シ得ルヤノ問題ニ至リテハ之ヲ聽衆ノ諸君ニ質

サントス

三十余万ノ聴衆ハ一時ニ賞讃ノ聲ヲ發シ反對論者ハ此間ニ喙ヲ容レシト欲スレドモ叫呼ノ聲ニ亂攪セラレテ亦言フ能ハス而シテ言ハントスレハ他ノ聴衆之ヲ止メ遂ニ衆庶ノ外ニ押シ出タサレタリ衆皆ナ大呼シテ曰ク反對論ノ狂者ヲ追フヘシ狂者ヲ追フベシト

反對論者ハ徐カニ呼ソテ曰ク

演舌者ヨ請フ唯ヨ二三ノ問ヲ出タサシメヨ

「アーデン」氏答テ曰ク

汝ノ云フソントスル所ヲ云ヘヨ予甚々之ヲ好メリ

反對論者ハ乃チ問フテ曰ク

君ハ何ツ不注意ナルヤ君若シ圓錐形ノ彈丸ニ駕シテ彼ノ月世界ニ至ラントセバ不幸ナルカナ君ハ發射ノ時ニ際シ反動力ニ因テ其身体ヲ粉碎セラレ、ベシ君以テ如何トス

「アーデン」氏答ヘテ曰ク

反對論主唱ノ先生ヨ君ノ疑問誠ニ其理ナキニアラズ然レトモ余レ思フニ米國人ハ其精神不撓強剛ナルヲ以テ其ノ危險ヲ凌グノ良法ナキニアラズ亦ク此ニ疑議スルコト勿レ

反對論者亦ク問フテ曰ク

彈丸ノ大氣中ヲ飛過スルニ當リ其駿速ナル速力ニ因リ大熱力ヲ生ゼザルヤ

答ヘテ曰ク

然ラズ然ラズ彈丸ノ厚サ最モ厚シ而シテ我等ハ駿速ニ大氣ヲ飛過スベシ

論者亦タ問フテ曰ク

君ヨ食物及ヒ飲料ハ之ヲ如何セントス

「アーデン」氏答ヘテ曰ク

余レ之レヲ算數上ニ測ルニ十二月間ヲ支フベキノ量時^{タビ}ヒ得ベシ然ルニ余ハ只ク四日ノ旅行ニ少量ヲ要スルノミ

論者問ヒテ起シテ曰ク

月世界旅行ノ途上ニナイテ呼吸スベキ空氣ハ如何セントスルヤ

答ヘテ曰ク

余之レヲ作ルニ化學ノ作用ヲ以テセントス

論者亦タ問ヒテ出タシテ曰ク

若シ君ノ目的ノ如ク彼ノ月世界ニ達スルトセハ君ハ必ズ月球ノ上ニ落ルベシ君然ラズトスルカ

答ヘテ曰ク

月世界ニ墮落スルハ我地球ニ墮落スルニ比スレハ其力ノ小ナル只ク六分ノ一ノミ何ントナレハ月球上ニ於テハ彈丸ノ重量之ヲ地球上ニ在ルノ時ニ較ブレハ其ノ六分ノ一ニ減却スルヲ以テナリ

明治十二年十二月廿四日版權免許
同 十四年二月一日別製本御届
同 十四年三月 出版發兌

每卷定價十二錢

譯述人

高知縣士族

井上

勤

大坂府平民

東京芝區二葉町七番地寄留

出版人
兼發賣

三水

美記

大坂東區北久寶寺町
四丁目四十四番地住

賣弘所

大坂心齋橋通北久太郎町北二入

柳原喜兵衛

同 本町心齋橋東二入

書籍會社

同 同所

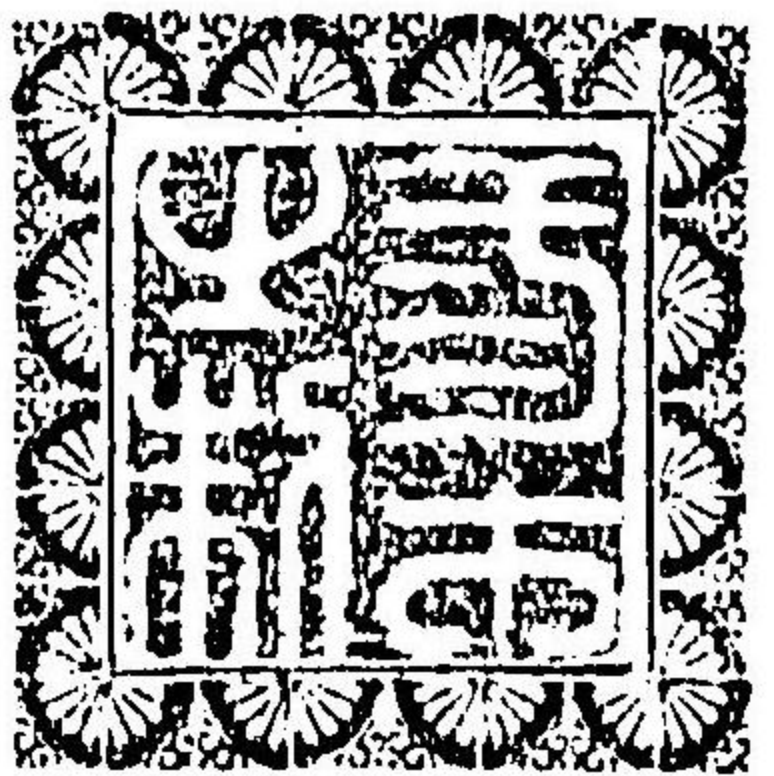
岡島真七

東京南鍋町一丁目

うさぎや誠

同 馬喰町二丁目

石川治兵衛



米國ジユルスベルン氏著
日本井上勤譯

卷之五

九十七時
二十分間
月世界旅行

版權免許
二書樓發兌

九十七分間 月世界旅行第七卷

米國 シュニールス、ベルン氏著

日本 井上 勤 譯

第二十回之續

反對論者亦問フテ曰ク

君ハ月世界ニ墮落スルハ我地球ニ墮落スルニ比スレ
ハ其力ノ小ナル只タ六分の一ノミト云フト雖モ余熟
々之ヲ思考スルニ君若シ彼彈丸ニ觸シテ月世界ニ墮
落スルハ必ス重力ノ爲メニ君ガ身体ノ碎ケテ粉末
トナルヲ恰モ石上ニ薄キ硝子ヲ擲ツカ如ク細片四散
其在所ヲ見ル能ハサルニ至ラソカ

一 論者直チニ疑問ヲ轉シテ曰ク

二

先ツ他ノ疑問ヲ聞キ今假リニ總テ困難ナル箇條ハ之ヲ凌クノ方策アリトシ又タ假リニ總テ障碍トナルヘキ事物ハ除去スルノ趣向アリトナシ千緒万端君カ思想ノ如ク一物ノ妨ケルナク君ハ彼ノ彈丸ニ認シ安然トシテ月球ナル殊別世界ニ到達シ得ルトセシニ歸途ハ如何ナル方法ヲ以テ我カ地球ニ歸ラントスルヤ

「アーデン」氏答ヘテ曰ク

余ハ再ヒ此ノ地球ニ歸來スルノ初志ニアラズ

「アーデン」氏ガ此ノ答辭ヲ出シタルヤ聽衆ハ答辭ノ余リニ質撲ニシテ決心ノ確乎タルヲ以テ少焉ク默然トシテ誰レノ一言ヲ出スナク圓トシテ聲ナシ此ノ寂寥タルハ亂呼狂叫ノ熱鬧ナルヨリ人々ハ却テ一層甚シキ感覺ヲ發起シ人

アリ此ノ靜寂ナル好機會ニ乘シ亦難問シテ曰ク

若シ彼ノ月世界ニ留マツテ歸ラザルハ君必ス死セザルベカラズ而シテ此ノ死亡タルヤ狂人が途上横死ト同視セザルヲ得ス何トナレハ君月球ニ到達シ月球ノ事情ヲ探知シテ我カ地球ニ歸ラザレハ全ク學術等ヲ補助スルノ功モナク唯タ消閑ノ一話柄ヲ殘スニ過ギザレハナリ

「アーデン」氏答ヘテ曰ク

反對論者ヨ余ハ眞ニ君ノ前言理アルヲ以テ之ヲ聞クノ辱ナキヲ謝ス

反對論者亦曰ク

君素ヨリ然ラザルヲ得ズ我カ云フ所頗ル理アリ然レ

三

四

「トモ今之ヲ願ミルニ事只小兒ノ戲言ニシテ主旨ノ取
ルベキナシ我レ何ヲ以テ斯クノ如キ痴論ヲ喋々シテ
長キ時間ヲ消過シタリシヤ余レ我レヲ解スル能ハズ
斯クノ如キ狂妄ナル試験ハ請フ自ラ其爲サントスル
所ヲ爲ヨ予ノ與リ知ル所ニアラズ亦タ君ト論議シテ
予ヲ煩ハスニ足ズ先生衆聽ニ對シ肅然貌ヲ改メテ其
高坐ニ立ツヲ休メヨ

時ニ人アリ彼ノ反對論者カ一言ノ畢ルヲ待テ大呼シテ曰
シ

君過マテリ君過マテリ余方ニ君ノ位置ニ代テ以テ尙
ホ疑問ヲ出サントス

「ミナエル、アイデン」氏ハ聲ヲ強クシテ曰ク

余レ敢テ問フ誰レアツテ此ノ「アイデン」ニ向フテ問フ
所アラントスルカ

人アリ答テ曰ク

今君ニ向フテ問フ所アラントスルモノハ人ノ忘誕取
ルニ足ラズトナシ又成功スベキ事ニアラズトスル所
ノ月世界旅行ノ大業ニ參與シタル無學不識ノ一人ナ
リ

五

社長「バルビケイン」氏ハ「アイデン」氏ト聽衆ノ論議紛々タル
ニ際シ容貌肅然他ノ議論ノ如何ハ我レ之ヲ願ミズト云ヘ
ルガ如キ顔色ニテアリシカ今ヤ論議轉シテ同盟社員ト「ア
イデン」氏ノ問ヲ起リタルヲ以テ自ラ堪ユル能ハズ忽焉起
立シテ彼ノ答辭ヲ出タシタル人ニ向ヒ之レカ論議ヲ止メ

六

ソト欲シ聴衆ノ群集ヲ倒シテ其人ノ面前ニ到リシトキ人
 皆ヲ爭門ナリトシテ之ヲ抑留スルヲ試ミタリ時ニ數萬ノ
 聴衆ハ手ヲ舉ケテ先ツ社長ハルヒケーン氏ヲ扛擧シ次ニ
 「アーデン」氏ヲ扛擧シテ其名譽ヲ表シ或ハ呼ビ或ハ叫ビ甲
 ハ乙ヲ倒シ乙ハ丙ノ肩ヲ越ヘテ進ミ喧鬧紛亂争フテ以テ
 自分ノ肩ヲ貸シテ社長及ヒ「アーデン」氏ノ身体ヲ舉ケテ以
 テ之ヲ祝スルノ意ヲ表セント勉メ其狀恰モ狂スルカ如シ
 然レドモ彼ノ反對論者ハ此ノ騷亂ノ間ニ立テ猶ホ不解ノ
 條件アルヲ以テ之ヲ問ハント欲シ手ヲ張テ他ノ己レヲ倒
 サントスルヲ防キ其時機ヲ待チ居タリ此人海ニ狂瀾ノ起
 リテヨリ其聲怒號雷ノ如ク社長ノ身体或ハ此ノ所ニアル
 カト見レハ忽焉トシテ彼ノ所ニアリ其動搖運轉ノ狀恰モ

七

船ノ波瀾上ニ在テ蕩搖其處ヲ定メサルニ似タリ「ミチエ」
 アーデン氏モ万衆ノ肩ニ在テ或ハ此ニ或ハ彼ノ處ニ轉シ
 顔色爽快十分ノ愉快ヲ覺フガ如シ少焉アツテ聴衆ハ忽チ
 大動搖ヲ始メ其行ク處ヲ定メザリシガ兩勇者忽チ足アル
 ノ船ヲ得テ身体蕩動ノ中ニ遂ニ「テレバ」ノ市街ニ到着シ
 リ「ミチエ」ル「アーデン」氏ハ市街ニ到着シテ以來万衆ノ再ビ
 其身ヲ捕ヘテ之ヲ扛擧シ以テ祝セントスルノ勢アルヲ前
 知シ遁逃シテ市街第一ノ旅店ホテルフランクリンニ投シ
 速カニ室ノ最良ナルモノヲ撰ビ遂ニ臥床ニ横ハリ時ニ旅
 店ノ戶外ニハ數千ノ兵卒整列シテ不慮ニ備ヘタリ
 此時ニ當リ砲銃會社々長「バルビケーン」氏ハ猶ホ聴衆ノ中
 ニ反對論者アルヲ知テ大呼シテ曰ク

若シ反對論者ノ會社ノ大業ニ付キ問フ所アラント欲
スルモノアラハ余ト共ニ來ルヘシト
時ニ一人ノ社長ニ從テ來ルモノアリ未ダ市街ハ喧鬧ナル
ヲ以テ社長ハ一人ヲ伴フテ「シヨウンズ」フチ「ル」ノ波止場
ニ來リ此處ニ寂寥トシテ傍ニ人ナク以テ語ルニ便ナレハ
社長乃チ問フテ曰ク

君ハ何人ナルヤ

答ヘテ曰ク

余ハ「ケ」ビテ「イ」シ「コ」ウ「ル」ナリ

大聲呼テ曰ク

余ハ汝ヲ待ツコト大早ノ雲霓ニ於ケルカ如シ然レト

モ不幸ニシテ未ダ會テ汝ヲ見ス今幸ニ汝ニ會スルヲ

得テ將ニ論議スル所アルベシ

「ニコール」氏ハ欣然トシテ曰ク

余モ亦ダ論議セントスルノ目的ヲ以テ此ニ來テ君ヲ

見ルナリ

社長曰ク

君曾テ余レヲ輕侮シタリ

答ヘテ曰ク

然リ

問フテ曰ク

汝ハ彼ノ輕侮シタル條件ニ付余ガ疑問ニ答ヘ得ルカ

「ニコール」氏問フテ曰ク

九 今目前ニ於テ答ヘ得ルカト云フノ意ナルヤ

社長答へテ曰シ

然ラス今余ト汝ト論議セントスル所ノモノハ一大要
件ニシテ之ヲ他人ニ聞知セシムベカラズ故ニ之ヲ秘

セントスルコトハ寂寥遠隔ノ地ニ於テセザルベカラズ

「テレバ」布街ヲ距ツル一二里餘ノ處ニ巨大ナル森林ア

リ之ヲ「スカースナウ」ノ森林ト云フ汝之ヲ知ルヤ否ヤ」

「ニコール」氏答へテ曰ク

予固ヨリ己ニ之ヲ知レリ

社長問フテ曰ク

君冀シハ明朝五時ニ於テ彼ノ森林ノ一方ヨリ入テ林

中ニ待ツベシ汝若シ我カ意ノ如ク爲セバ余ハ同時ニ

於テ他方ヨリ林中ニ入テ汝ニ會スベシ

社長「バルビケーン」氏曰ク

汝ハ汝ノ旋條銃ヲ提携スルコトヲ忘ル、コト勿レ

「ニコール」氏答へテ曰ク

汝モ亦シ汝ノ旋條銃ヲ忘ル、勿レ

右ノ相談ヲ終ハルヤ社長「バルビケーン」氏及ヒ「ニコール」兩氏

ハ明日ヲ約シテ以テ別レタリ「バルビケーン」氏ハ乃チ急ニ

我カ旅店ニ歸リ睡眠ニ消過スヘキ少時ヲ以テ彼ノ彈丸ノ

旗回ヲ避クルノ方法ヲ發見シ且ツ彼ノ演舌中ニ於テ論議

セル所ノ「アーア」氏カ陳説セル難題ヲ解セント欲シ百慮

千考以テ一霄ヲ通過シタリ

社長及「ココル」氏ノ争鬥

却「社社長」ハ「ルビケ」ン「氏」ハ「ココル」氏ト彼ノ「森林會合」ノ事ヲ商議スル時ニ當ツテ「ミチエ」ル「アイダン」氏ハ彼ノ長日ノ演舌論議ニ身体疲勞精神衰弱臥床ニ横臥シテ恰モ死スルカ如ク只々悠々大彈丸ノ中ニ在テ彼月世界ニ旅行スルノ夢ヲ柔毛鹿^{ビシ}ニ結ヒ大砲ノ雷鳴窓戸ヲ振動スルモ彼レハ恰モ鋼鐵ヲ以鑄造シタル一像ノ如ク到底之ヲ攪起スルニ足ラズ人アリ戸ヲ敲イテ大呼シテ曰ク

大事アリ君何ソ戸ヲ開カザルヤ君何ソ戸ヲ開カザルヤト

大呼數回ナリシカ「アイダン」氏ハ余リニ余レヲ呼フノ甚シキヲ以テ漸ク防問者ノ何ノ爲メニ來リタルヤヲ問ハント

大阪 警泉堂 刷

圖ノ合會ニ中林森山ココ及社



欲シテ忽チ窓戸ヲ開キタリ時ニ砲銃會社ノ同盟社員ハ一同室内ニ走入シ其大響ハ彼ノ巨大ナル破裂彈丸モ斯クノ如キノ雷鳴喧闐ヲ致ス能ハス其無禮ナル状態ハ恰モ敵ノ城中ニ侵入スルコ似タリト云フベシ「セイ、サー、マストン」氏俄然大呼シテ曰ク

昨夜我等カ社長ハ公然万衆ノ目前ニ於テ輕侮セタレ
社長ハ大ニ之ヲ忿怒セリ其輕侮シタル人物ハ他人ニ
アラス是レ「ケビテイソ、ニコール」氏ナリ故ニ社長モ竟
ニ「ニコール」氏ト約シテ「スカリスナツ」ノ大森林中ニ於
テ今朝共ニ其生死ヲ決セントス余ハ其詳細ナル事情
ハ之ヲ「バルビケーン」社長君ノ口ヨリ親シク聞知スル
ヲ得タリ而シテ若シ同社長君ノ不幸ニシテ彼ノ争門

ニ倒ル、アラハ會社を員一同ノ同謀セル一大事業ハ
 遂ニ其結果ニ到ラズシテ中止セザルヘカラス是レ一
 大危事ト云ハザルヲ得ザレバ我等社員ハ如何ノ方法
 ナリテスルトモ此ノ兩人ガ争闘ヲ留メザルヲ得ス豈
 ニ之ヲ對岸ノ火災視去ルヲ得ンヤ一人ノ力ヲ以テ社
 長「バルビケーン」氏ガ熱心シタル所ノ争闘ヲ留ムルニ
 足ルモノハ唯マ一人アリ是レ他人ニアラス「ミチエル」
 アイアソ「氏」ナリ亦タ「アイアソ」氏ヲ除イテ他ニ之レニ
 代ルノ人ナシ

「アイアソ」氏ハ「セー、サー、マスト」ガ社長ノ事ニ付キ熱心シ
 テ語ルヲ聞キ一語ノ之ヲ妨グルナク其間黙然トシテ之ヲ
 聞キ居タリシカ忽焉立テ新衣ヲ穿テ數秒時間ヲモ過キズ

シテ兩人ハ急足馬ノ如ク走テ共ニ「テレバ」市街ヲ發シ郭外
 ニ出テ、彼ノ大森林ニ向フテ急キタリ
 此ノ途中ニ於テ「マスト」氏ハ「アイアソ」氏ニ向ヒ「バルビケ
 ーン」氏ト「ケビテイソ」ニ「コール」氏トノ間ニ紛争ヲ發起シタ
 ル其根源ハ箇様ナリ又前日ニ於テ兩氏ノ間ニ紛争ノ起リ
 タルハ「ニコール」氏ガ新聞紙上ニ會社大事業ノ不成功ヲ主
 張シタルニ因ル云々兩氏ガ新聞紙上ニ於テ争論シタ後
 今日迄未ダ面會セザリシ理由ハ箇様ナリ且ツ加フルニ其
 争論ハ「ニコール」氏ガ鐵板及彈丸ノ理論ニ付キ彼レハ此ヲ
 是トシ此レハ彼レヲ非トシ互ニ競争シテ遂ニ離散視スル
 ニ至レリ云々而シテ前日ノ會合ハ「ニコール」氏ガ自分ノ宿
 怨ヲ此ニ發セントスルノ好機會トシテ待チ設ケタル所ナ

リ云々詳カニ其情態ヲ語リタリ
抑米國ニ於テ最モ恐怖スヘキ事件ト云フハ私論ノ果合^{ハタフ}ロ
リ大ナルハナシ此ノ果合ト云フハ二人爭論ヲ發シ其論意
竟^ツニ決セヌ之ヲ干戈ニ訴ヘテ以テ生死ニ決セント欲シニ
人恰モ猛虎ノ互ニ相搏ツカ如ク爭鬥ス一進一退生死ノ決
スル所亦タ危殆ト云ザルヲ得サルナリ
「アーデン」氏ハ^{ニホ}然^{ニホ}然^{ニホ}聲ヲ強クシテ呼ブ曰ク
嗚呼痴ナルカナ嗚呼痴ナルカナ若シ社長トニコ^{ニホ}ール
氏トノ間己ニ爭鬥生死ヲ畢ハリシ後ハ我等ノ思フ處
全ク水池ニ墮ス故ニ斯ク語リナカラ^{ニホ}後々^{ニホ}遅々^{ニホ}歩ムベ
カラズ直ニ馳テ彼ノ森林ニ到ラサルベカラズ
「ゼイ、チー、マストン」氏ハ答ヘテ曰ク

誠ニ然リ我等ハ遅々緩々タルベカラズ急走セサルベ
カラズ

斯クテ假令ヒ「マストン」ノ兩氏カ平原ヲ
横切リテ露滴衣ヲ濕シ礫石靴ヲ破アリ急走シテ或ハ大巖
ヲ攀ギ或ハ稻田ヲ過キリ「スカースナウ」ノ森林ニ達セント
欲スルモ五時半ノ時間ヲ費サ、レハ之レニ達スル能ハス
然ルトキハ事己ニ終リタルニキ割合ノ時限ニシテ右兩氏
カ所志ニ違フヘキ筈ナルニ幸ヒナルカナ「バルビケ」氏
ハ彼森林ノ入口ニ到リ半時間余ヲ此ニ消過セサルヲ得
ルノ事アリ兩氏カ森林ノ入口ニ來タルヤ老樵^{ニホ}ハ大木ヲ切
リ倒シ路ヲ塞イテ路行クヲ得ス且ツ老樵ノ同氏ニ向フ
テ種々ノ事ヲ問フヲ以テ竟ニ少時ヲ消過シタリ「アーデン」

「ゼイナト、マストン」ノ兩氏ハ漸ク此ニ達スルコトヲ得テ遂
カニ老樵ヲ認メ「マストン」氏ハ疾走飛カ如ク老樵ニ近寄り
言語慥忙問フテ曰ク

白髮ノ老樵ヨ汝ハ暫ク以前ニ手ニ旋條銃ヲ携ヘテ此
ノ森林中ニ入りタルノ人アルヲ知ルヤ否ヤ其人ハ我
良友ニシテ即チ砲銃會社々長「ハルビケーン」氏ナリ

「マストン」氏ハ社長「ハルビケーン」氏ヲ尊崇シ地球上ノ各處
ニ社長ノ芳名ヲ知ラサルベキ譯ナシト思フヲ以テ右ノ如
ク社長ノ名ヲ出シテ之ヲ問フト雖樵夫豈ニ之ヲ知ルノ理
アランヤ人皆砲銃會社々員ノ如ク社長ヲ尊敬スベキ道理
ナシ

「アーソン」氏曰ク

銃ヲ携ヘタル一箇ノ獵夫ノ如キ人ナリ

樵夫答ヘテ曰ク

汝ノ尋ヌル所ノ人ハ獵夫ノ如キ人ナルカ若シ夫レノ
如キ人ナラハ長キ以前ニ此ノ森林中ニ入りタリ思フ
ニ已ニ一時間余ニモナルヘシ

「マストン」氏顔色忽チ變シテ嘆息ノ聲ヲ發シテ曰ク

一時間余ヲ經過シタルハ事已ニ遅カルヘシ

「アーソン」氏問フテ曰ク

汝ハ一發ノ砲聲ヲ聞キタルヤ否ヤ

「マストン」氏答ヘテ曰ク

猶ホ未ダ之ヲ聞カズ

「アーソン」氏ハ直チニ「マストン」氏ノ手ヲ取り速カニ來レ速

カニ來ソト云ツ、進行ス暫クアツテ灌木ノ如キ小木ノ繁茂シタル中ニ入テ二人互ニ其形ヲ見失ヒタリ此ノ森林中杉樹アリ酸菓木アリ楓樹アリ「チユーリツプ」木アリ檜樹アリ樺樹アリ其他百種千類ノ異樹珍木其名ヲ枚擧スルニ逸ナク枝々幹々皆ナ互ニ交錯シテ恰モ織ルカ如ク暗澹トシテ咫尺モ之ヲ辨スル能ハス「ミチエル」アーデン」氏及ヒ「マストン」氏ハ漸ク互ニ相見ルコトヲ得手ヲ携フテ荆棘ヲ分チ默然進行愈進メハ荆棘愈深ク兩氏ハ只ク旋條銃ノ一聲ヲ聞クイテ注意シタリ其進行スル道ハ「バルビケーン」氏ガ林中ヲ經過シタル道ナルヘシト覺ユル所ニ就イテ歩ムニ竟ニ其足跡ノ如キモノヲ見ルナシ故ニ兩氏ハ只ク之レハ道ナルカ道ナラサルカヲ考ヘ恐ラクハ道ナルヘシト思フ

處ノ想像小經ニ就イテ亦ク歩ムコトニ三百歩ナルヘシ枝々密々ノ處ニ來リ日光モ爲メニ透入スルノ寸隙ナク黑暗恰モ無月ノ中夜ニ似タリ己ニ一時間余ヲ歩ミタレドモ未ダ社長ヲ見出タス能ハズ兩氏ハ今ヤ如何トモスベカラサルヲ以テ歩ヲ止メタリ

「セイ、チー、マストン」氏ハ力ヲ失フタルカ如キ聲言ヲ以テ曰ク

今ニ至テ我等ハ其爲ス所ヲ知ラズ

社長「バルビケーン」氏ハ其性質危ヲ見テ之ヲ怖レヌ強敵ニ對シテ之ヲ避ルカ如キ怯懦ノ精神ナシ故ニ同氏ハ敵手ト旋條銃ヲ以テ爭鬥シ今其生死ヲ審カニスル能ハズ又ク炮聲ハ風ノ方向ニ因テ或ハ我等ガ耳朶ニ來ラサルナラシカト

疑フナリ
「アイアソ」氏答へテ曰ク

我等カ此ノ深森中ニ入テヨリ後ニ若シ獲砲シタラソ
ニハ必ス我等カ耳朶ニ來ルヘキ筈ナリ未タ之ヲ聞カ
ザルヲ見レバ必ス未タ獲砲セザルナルベシ

「ゼイ、チー、マスト」氏失望シタルカ如キ聲音ニテ獲語シテ
曰ク

余ソ思フ來ルノ己ニ遲キヲ以テ己ニ我等ノ來ラザル
前ニ事ノ終ハリヲコアラザルヤ君以テ如何トス

今ハ「アイアソ」氏モ之レニ答フヘキ言葉ナキヲ以テ「マスト
」氏ヲ奮起セシメ黙マテ進ムモ却テ益ナキニ似タレバ共
ニ斷ヘズ大聲ヲ發シ社長及ヒ「ニコール」氏ヲ呼ハソコトヲ

納シ「マスト」氏ハ「バルビケーン」ヲ喚ヘハ「アイアソ」氏ハ「ニ
コール」ヲ呼ヒ順次ニ其名ヲ呼ソテ進行スルコト數百歩ナ
ルヘシ然レドモ誰ソトシテ之ニ答フルモノナク衆鳥ハ此
ノ呼聲ノ爲メニ午睡ヲ攪セテレタルカ皆ニ棲處ヲ出テ、
枝ヨリ枝ニ飛翔シ唯其聲ヲ聞イテ其形ヲ見ス又タ或ハ鹿
子ハ眠ヲ醒覺セラレテ不意ニ目前ニ跳リ出テ大ニ「マスト
」ヲ喚驚セシメタリ猶ホ續々進行スルコト一時余殆ソド
森林ノ大半ヲ經過シタレドモ曾テ社長及ヒ「ニコール」氏ノ
殘影ヲモ見ル能ハス故ニ「アイアソ」氏ハ樵夫カ以前ニ告ケ
タル「ノ或ハ虚誕ニアラサルヤヲ疑ヒ斯カル搜索ハ無益
ナルヘシト思考シ方ニ之ヲ止メテ歸途ニ就カソコトヲ云
ヒ出タサソトスルノ狀アリ

「アトマン」氏曰ク

「マストン」君曰ク彼ノ處ニ人ノ如キ者アルヲ見サルヤ

「マストン」氏曰ク

我レモ人ノ如キモノヲ見ル彼レハ人間ナルヤ彼ハ靜

止シテ動カス又彼ノ側ニ旋條銃ノ如キモノヲ見ズ彼

レハ何ヲ爲シツ、アルト見ユルカ

「アトマン」氏答ヘテ曰ク

汝ハ判然之ヲ見ルヲ得ルカ

「アトマン」氏ハ元來性質近視眼人ナレハ斯クノ如キ遠隔

ノ物体ヲ見ル能ハス故ニ唯タ人ニ問フヲ以テ之ヲ知ラズ

トスルノミ

「マストン」氏答ヘテ曰ク



圖 試之彈丸中ヨリ箱ヲ出ス

余レ之ヲ判然見ルヲ得タリ彼レハ我等ノ方ニ向フテ
見ルカ如キノ状アリ能ク彼ヲ見レハ彼ハ「ケビテイソ、
ニコール」氏ナリ

「ミチエ、アイダ」氏大聲ニ呼テ曰ク

「ニコール」氏ナルカト

其聲恰モ悲痛ニ堪ヘザルモノ、如シ又曰ク

余ハ方ニ近ヅイテ之レカ眞偽ヲ決定セントス

「アイダ」氏ハ乃チ歩ムニ五十歩余刮目シテ眞ニ「ニコール」
氏ナルヤ否ヲ決定セント欲シ若シ「ニコール」氏ナラバ必ス
争鬥ノ勇氣狂スルガ如ク血液逆上シテ容易ニ近寄ヘカク
サルモノナルヘシト思ヒ亦ヲ進ミ得ス然ルニ「ニコール」氏
ノ其狀眠ルカ如キヲ見テ兩氏共ニ力挫ケ氣振ケ茫然トシ

テ佇立^{チロウニヤ}セタリ

時ニ「チニエーリツプ」樹ノ兩間ニ蛛網^{ヒョウ}ノ細糸ヲ以テ作リタル
ガ如キモノニ小鳥ノ羅^カリテ悲聲ヲ發シ小翼^{コウ}ヲ振^{フル}フテ逃レ
去ラントスルアリ此絲^{イト}蹄^{フミ}ヲ張リタル捕鳥者ハ人間ニアラ
ズ小瓜^{コウ}ヲ以テ僅^ヒカニ其身ヲ防^マク所ノ大蜘蛛ナリ「ココール」
氏ハ自分ノ旋條銃^{センジョウ}ヲ地上ニ置キ頻^ヒリニ彼ノ小鳥ヲ救フニ汲
々^シタリシガ終ニ小鳥ハ同氏ノ助ケニ依テ欣然飛去ルヲ得
タリ

「ココール」氏忽焉「アーダン」氏ニ向ヒ問フテ曰ク

君ハ何ノ事故アツテ斯クノ如キ森林中ニ來タリシヤ

「アーダン」氏答ヘテ曰ク

君ガ社長「バルビケーン」氏ヲ殺スヲ妨ケ亦々社長ガ君

ヲ害スルヲ留メント欲スルノ微衷ヲ以テ此ニ來リシ
ノミ

「ココール」氏問フテ曰ク

社長「バルビケーン」氏ハ何ノ處ニアルヤ余己ニ同氏ヲ
見ント欲シテ此ニ彼ヲ索ムルコトニ時間余未ダ彼ヲ
見ル能ハス

「アーダン」氏曰ク

「ココール」君ヨ君ノ云ヘル如ク社長ヲ搜索セタレハ必
ズ之ヲ得サルノ理ナシ然レトモ君ハ眞ニ彼ヲ索メザ
ルカ將タ之ヲ搜索セテ得ザルカ社長若シ生キテ此世
ニ在ラハ必ズ左様ニ發見シ難キ譯ナカルベシ

「ココール」氏大呼セテ曰ク

「バルビケーン」氏ト余トノ間ニハ素ヨリ誰レカ一人死セザレハ局ヲ結バザルノ一大競争アリ

「アーデン」氏驚愕ノ狀ヲナシテ曰ク

何ト云フ事ア何ト云フ事ア汝ハ實ニ勇猛野獅ノ如キモノト云フベシ

「ニコール」氏又曰ク

余ハ將サニ門戰セントスルノ意思ナリ

「ゼイ、ナイ、マストン」氏激聲ヲ發シテ曰ク

「ニコール」君ヨ余ハ社長「バルビケーン」氏ノ一良友ナリ社長モ亦タ善ク我ヲ愛ス汝若シ實ニ争門シテ誰レカ一人ヲ倒サ、レバ止マザルノ猛心自ラ抑制スル能ハズソバ汝應ニ此ノ「マストン」ヲ砲殺スベシ余ハ將サニ

社長ニ代ハラントス汝モ亦タ余レヲ殺シテ以テ止ムヘシ

「ニコール」氏ハ忽チ側ニ在ル所ノ旋條銃ヲ取り上ケ答ヘテ曰ク

君ヨ君戯言ヲ吐クコト勿レ

「アーデン」氏答ヘテ曰ク

我カ友「マストン」氏ハ戯言ヲ吐クニアラズ同氏が自己ノ生命ヲ棄擲シテ其良友ヲ救ハントスルノ意思ハ眞ニ腦底ヨリ生シタルコトノ相違ナキハ余之ヲ保証スル所ナリ然レドモ「マストン」氏モ「バルビケーン」氏モ我レ其生命ヲ汝カ銃丸ノ下ニ落サシムルヲ欲セズ而シテ我レ汝ト社長ノ面前ニ於テ一言ノ呈スヘキアリ其

事實ニ語ラサルベカラサルコトアリ

「ニコール」氏ハ初ニ其事ヲ聞カント欲スルノ顔色ヲ顯^{アラ}ハシ

問フテ曰ク

今汝ノ云ハソトスルノ所事ハ如何ナル事ニシテ何ニ
關スル事ナルヤ

「アーダン」氏手ヲ舉ケテ呼テ曰ク

暫ク之ヲ待ツベシ暫ク之ヲ待ツヘシ此事社長「バルヒ
ケーン」氏ノ目前ニアラザレハ之ヲ語ルベカラス

「ニコール」氏曰ク

然ラハ我レ汝ト共ニ社長ノ在處ヲ探リ求ムベシ請フ
我が行ク所ノ方向ニ従フテ來ルベシ

是ニ於テ「アーダン」「マストン」「ニコール」ノ三氏ハ直ニ此處

ヲ覆シ急歩シテ進行ス時ニ「ニコール」氏ハ忽焉天ニ向フテ
銃ヲ放ツコト一發黙然トシテ行クコト殆ント半時余未ダ
社長ノ在處ヲ索メ得ズ「マストン」氏ハ忽然トシテ「ニコール」
氏ニ向ヒ同氏カ己ニ二人差向ヒニ争鬥シテ或ハ社長ヲ施
殺シ之ヲ語ラザルニアラザルヤヲ問ヒ若シ社長ヲシテ此
世ニ生存セシメハ斯クノ如ク長ク發見シ得ザルノ理ナシ
ト思フコトヲ語リツ、行クニ「アーダン」氏モ亦「マストン」
氏ト同一ノ思想ヲナシ共ニ「ニコール」氏ニ追テ互ニ之ヲ問
フニト歩々數回又々行クコト二三百歩大石ニ倚テ動かザ
ル一箇人間ノ如キ形体ヲ四五十歩外ニ認メ得タリ「マスト
ン」氏ハ愉快ナル聲音ニ呼テ曰ク
看ニ看ニ彼ノ處ニ人間ノ如キモノヲ認メ得彼ノハ亦

社長ニアラサルヤ
 「バルビケーン」氏ハ微動ナモ爲サズ「アイデン」氏ハ「ニコール」氏ト互ニ相見テ默然タリ「アイデン」氏ハ「バルビケーン」君ヨ「バルビケーン」君ヨト呼ヒツ、忽チ走テ社長ガ前ニ到ル社長ハ未タ默シテ答ヘズ「アイデン」氏亦タ進メテ社長ノ腕ヲ握リ一聲大呼シテ恰モ驚愕ニ堪ヘザルノ狀ヲナシタリ其時「バルビケーン」氏ハ手ニ鉛筆ヲ撮リ手帖ノ中ニ地圖ヲ畫シナガラ側ニ裝藥セザル所ノ旋條銃ヲ置キ回顧シテ近傍ノ地理ヲ注視シ専ラ自分ガ學術ノ經驗ニノミ心ヲ奪ハレ已ニ決戦ノ約ヲ忘却シタルノ狀アリ「アイデン」氏ガ腕ヲ握リシトキ社長ハ愕然トシテ猶ホ默然タリ
 「アイデン」氏叫ソテ曰ク

余レ我が眞友ヲ發見セリ余レ我が眞友ヲ發見セリ社長長君ヨ君ハ其處ニ何ヲナスヤ

社長欣然トシテ曰ク

余レニ一大事業アリ余レ之ヲ爲シ亦タ思慮他ニ及フ
 ノ暇ナシ

「アイデン」氏問フテ曰ク

如何ナル事業ナルヤ

答ヘテ曰ク

我等ガ製作ヲ企テタル月世界旅行ノ彈丸ハ其大サ巨大ナルヲ以テ其振動モ亦タ大ナリトス故ニ之ヲ減却スルノ方法ヲ發明セサルベカラズ是レ我カ大業ナリト云フ所ナリ

「ミチエル、アーテソ」氏ハ「ニコール」氏ヲ流視シテ曰ク
其事眞コ然ルカ

「バルビクーン」氏ハ一呼シテ曰ク

「マストン」氏ヨ汝モ亦タ此ニ來リシヤ永ニ因テ彼ノ振
動ヲ妨グノ術ナキニアラザルベシ

「アーダン」氏答ヘテ曰ク

君ハ「ニコール」氏ノ此ニ在ルヲ忘レタルヤ否ヤ

然シテ氏ハ「ニコール」氏ヲ招テ自己ノ側ニ來ルヘキヲ表シ
タリ

「バル」氏クーン」氏欣躍シテ呼テ曰ク

「ニコール」君ヨ請フ我カ罪ヲ免ルセヨ余ハ全ク君トノ
約ヲ忘却シタリ然レドモ余ハ已ニ戰鬥ノ爲メニ用意

セリ

「ミチエル、アーダン」氏ハ二人ノ間ニ入テ戰鬥ヲ止メ共ニ以
前ニ相約セル爭鬥ノ事ヲ語ラシメザリキ而シテ忽チ大呼
天ヲ仰テ曰ク

余ハ天帝ノ仁惠ヲ謝ス此二人ノ勇者ヲシテ共ニ速カ
ニ相會合セザラシメシヲ

明治十二年十二月廿四日版權免許
同 十三年二月一日別製本御届
同 十四年三月 出版發兌

每卷定價十二錢

譯述人

高知縣士族

井上

勤

東京芝區二葉町七番地寄留

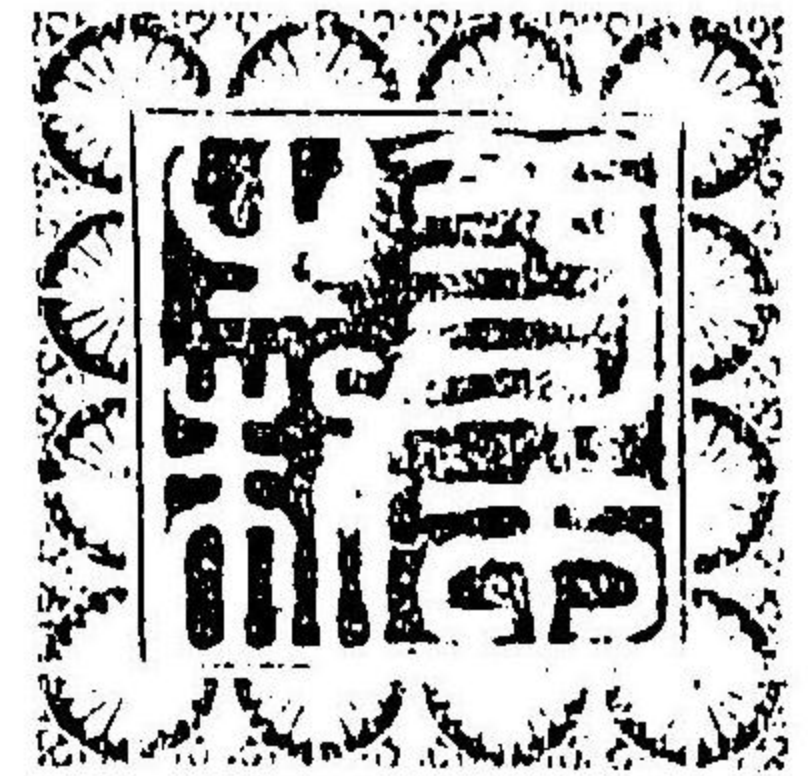
兼出版人

大坂府平民

三木

美記

大坂東區北久寶寺町
四丁目四十四番地住



賣弘所

大坂心齋橋通北久太郎町北二入
柳原喜兵衛

同

同 本町心齋橋東二入
書籍會社

同

同 同所
岡島真七

同

東京南鍋町一丁目
うさぎや誠

同

同 馬喰町二丁目
石川治兵衛

米國シユルスベルン氏著
日本井上勤譯

卷之

九十七時
二十分間
月世界旅行

版權免許
二書樓發兌

九十七分月世界旅行第八卷

米國 シュエールスベルン氏著
日本 井 上 勤 譯

第二十一回之續

時ニ「エナエル、アーデン」氏ハ「ニコール」氏ガ今迄樹間ニ於テ
或ハ鳥ヲ追ヒ或ハ鹿子ヲ遂フテアリシコトヲ語り社長ニ
向フテ曰ク

社長君ヨ又「ケビタイン」ニコール君ヨ君等ハ地球上
ニ於テ人ニ詐サレタル學者ニアラズヤ其學者ニシテ
天地間ノ理一トシテ悉ク之ヲ解セザルナク今君等ハ
互ニ其頭蓋骨ヲ銃丸ニテ破碎シ去リ共ニ倒ル、トキ
ハ地上ニ二人ノ大家ヲ失フナリ是レ亦タ地球上ノタ

メニ惜ム所ニシテ君等ノタメニ哀ム所ナリ
 「ミヤエル、アーデン」氏ハ今「バルビケトン」氏ト「ケビテイソ、ニコール」氏ト相方ノ顔色ヲ見ルニ互ニ相争門鬪戰ニテ必ス死ヲ決セザレハ彼ノ議論ノ局ヲ結了シ得ザルガ如キ猛烈ナル勢アルノ状ナク却テ微笑ヲ含ミタル温和ノ色ヲ顯シ其情態大ニ意外ニ出テタルニ因リ以爲シ是他事ヲ話シ出シ以テ兩氏ノ勇心ヲ轉變シテ争門ノ事ヲ忘レシムルニ優ルベキノ良策ナシト心此ニ決シ乃チ微笑ヲ含ミテ四方ヲ顧眄シ發言シテ曰ク

我が良友ナル諸君ヨ此ノ會社ガ企謀セル旅行大事業ニ付徒ラニ論議紛々トシテ之ヲ机上ノ議論ニ決セントスルハ實ニ嗤笑スベキノ徒事ニシテ事ヲ誤解スル

ノ最モ甚タシキモノト云ハザルヲ得ス然レトモ其誤解シタル事ヲ細索精討スルハ亦無益ナル徒事ト云ハサルヲ得サレハ別ニ之ヲ喋々スルヲ須^{モテ}ズシテ足レリ故ニ余ハ一箇端ノ一言ヲ呈セントス

「ニコール」氏ハ奮然立テ目ヲ怒ラシテ曰ク
 君ハ事ヲ議論上ニ決スルヲ以テ無益ノ徒事トス予此ニ論議ナキニアラザレドモ今君ハ何ニカ一言ノ簡説セントスル所アルアリ余レ我カ言ヲ以テ之ヲ中斷スルヲ欲セズ故ニ謹テ其一言ヲ聽カントス請フ速カニ其言ハントスル所ヲ云ハ

「アーデン」氏曰ク

三 我カ良友ナル砲銃會社々長「バルビケトン」氏ハ同氏が

四

製造セントスル所ノ彈丸ヲ以テ彼ノ月世界ニ直達シ得ルノ確算必ス誤ルナキヲ信スルコト最モ固ク決シテ寸動ヲモナスコトナシ

「バルビケーン」氏ハ中言シテ曰ク

余カ心中ハ今「アーデン」氏カ説話スル所ノ事ノ如シ然レトモ我が友「ニコール」氏ハ彼ノ彈丸ノ月世界ニ到達セズシテ中途ヨリ我地上ニ再ヒ墮落シ來ルベシト思考ス大ニ余ト其説ヲ異ニセリ

「ニコール」氏忽チ呼テ曰ク

余ハ必ス彼ノ彈丸ノ月球ニ達セズシテ再ヒ地上ニ墮落スルヲ保證ス

「アーデン」氏曰ク

君ノ思考スル所ハ君ノ思考ニ任スベシ余レ敢テ之ガ是非ヲ説カズ故ニ亦タ余ハ素ヨリ君ノ説ヲ曲ケテ必ス我カ説ニ屈服セシムルヲ勉メントスルノ心ナシ然レドモ予ハ將タ云ハントス君余レト共ニ彼ノ彈丸ニ親シ月世界ニ發程セヨ果シテ汝カ説ク如ク中途ヨリ再ヒ地上ニ墮落シ來ルヤ否ヤヲ實驗シテ以テ其實實ナルヲ見ユト

「ゼイ、チー、マストン」氏ハ驚愕ノ狀ヲナシ俄然大叫シテ曰ク「君何ヲ云フヤ君何ヲ云フヤ」

五

時ニ社長「バルビケーン」及「ニコール」ノ兩勇者ハ「マストン」氏ノ不意ノ大叫ニ驚キ互ニ相見テ茫然默シテ一言ヲ發セザルコト少時「バルビケーン」氏ハ「ニコール」氏ノ何ニカ發言ス

六

ル所アルベキヲ待テ「ニコール」氏ハ社長ノ何カヲ發言スル所アルベキヲ待テ居タリ

「ミチエ」ルアーデン」氏曰ク

事ノ成否ハ之ヲ實地ニ試ムルノ良策ニ優ル者ナシ故ニ彼ノ彈丸ノ振動如何ノ疑問ノ如キハ措テ之ヲ論ゼズ亦タ其大小ヲ畏懼スルコト勿レ

「バルビケーン」氏ハ大呼シテ曰ク

誠ニ然リ之ヲ實地ニ試ムルノ儼レルニ如クモノナシ我レモ亦タ其志ヲ同フス

「ミチエ」ルアーデン」氏ハ或ハ手ヲ舉ケテ踊リ或ハ手ヲ拍テ舞ヒ暫アツテ大呼シテ曰ク

嗚呼欣ブヘシ嗚呼喜ブヘシ實ニ勇敢ナル一言ト云フ

ヘシ此ニ在ル諸彦此一言ヲ以テ此ノ大事業ノ議論局ヲ結ビタリ亦タ祝スヘキニアラスヤ

第二十二回

米國ノ新府民

却説テ米國總体ノ人民ハ「ケビテイ」ニコール」氏及ヒ社長「バルビケーン」氏ガ互ニ死ヲ以テ會社大業ノ疑問ヲ決セント欲シ「スカースナウ」ノ森林中ニ至リシモ遂ニ「アーデン」氏及ヒ「マストン」氏ノ仲入ニ因テ平和ニ事ノ局ヲ結了セルヲ聞クヤ此ノ日ヨリ人民ノ之ヲ祝セント欲スルモノ近キハ自ラ來リ遠キハ代理ヲ派遣シ「アーデン」氏ニ面會ヲ請フ者夥多ニシテ氏ガ寓セル旅店ノ門外ハ爲メニ大群市ヲ爲シ

七

八

氏ハ一瞬間ノ休息ヲ得ル能ハズ甲去レハ乙來リ乙歸レハ丙之レニ代リ實ニ間斷アルコトナシ同氏モ之ヲ拒絕スル能ハズ彼ノ祝禮ノ定法ナル互ニ握手セシモノ其數幾万ナルヲ知ラズ手爲メニ麻痺シテ自分ノ手モ他人ノ手ノ如ク覺ユルニ至レリ而シテ此ノ議論決定シテ全ク大業ヲ實地ニ試ムルノ一事ヲ殘スノミトナリタル好結果ヲ祝シテ人民ハ戸々屋々酒杯ヲ舉ケザルナク家トシテ醉顔紅色ナラザルナク或ハ酩酊足爲メニ蹣跚タリ或ハ酒ヲ嗜マザルモノモ人ノ強迫ニ因テ僅カニ一杯ヲ傾ケ桃花ノ紅顔半醉快ヲ覺ヘ歌フ者アリ舞フ者アリ踊ル者アリ米國全州ノ人民悉ク狂スルガ如キ古今未曾有ノ状態トナリタリ

斯テ四方ヨリ派遣シ來レル代理ノ中ニ暫ク「アーデン氏」ト

對話ヲナシ此ノ將來月世界ノ搜索者トナツテ名聲ヲ全地球上ニ轟カスヘキ人物ヲ見覺ヘタシトシテ他ノ人々ガ山ノ如ク海ノ如ク門外ニ待ナタルヲ願ヒズ頻リニ他ノ閑室ニ入テ共ニ少時ノ閑話ヲ請フモノアリ其狀實ニ狂ヲ以テ之ヲ評スルヨリ他ハ言辭ノ能ク名狀シ得ヘキナシ又一日各地ノ貧民或ハ百或ハ千羣ヲ爲シテ「アーデン」氏ト共ニ彈丸ニ駕シテ彼ノ月世界ニ到リ亦タ共ニ同氏ト此ノ地球ニ歸ラシコトヲ願ヒ門外恰モ數百ノ兵卒ガ蟻集シテ孤城ヲ圍ムノ狀ニ似タリ其喧器ナルコト雷ノ如ク筆ノ以テ能ク之ヲ寫シ出スヘキニアラズ

九

「アーデン」氏ハ數萬ノ貧民ニ彼ノ月世界旅行ノ時彼等ヲ伴ナハンコトヲ結約シ漸ク萬群ヲシテ歸散セシメタル後社

長ニ向フテ曰ク

嗚呼愚民ノ蟲迷^{コイ}モ亦大ナリト云フベシ君ハ月球ノ
或ハ我カ地球上人民ノ疾病ニ關係スヘキ力ヲ有スル
ト思考スルヤ

社長答ヘテ曰ク

余ハ月球カ疾病ニ關係アリナド云フ事ハ忘誕取ルニ
足ラスト思考ス

「アーデン」氏亦ク曰ク

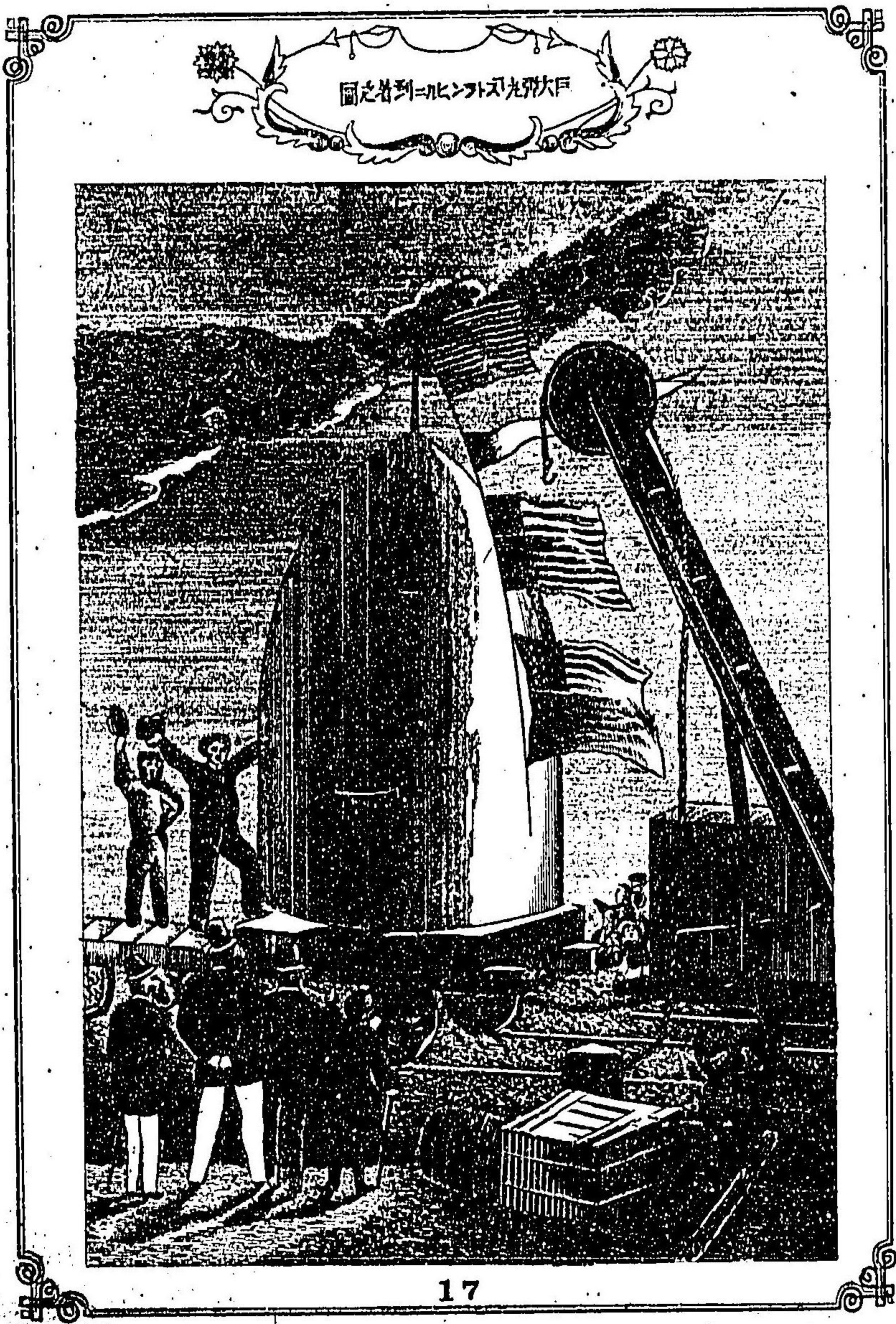
素ヨリ古ノ史乘中ヲ閱スルニ之カ著明ナル實蹟^{シツセキ}ナキ
ニアラス然レド余ハ全ク之ヲ信用スルニアラス其著
明ナルモノ一二ヲ此ニ舉ケンニ彼ノ千六百九十三年
ニ當リ傳染病流行ノ時人ノ多ク之ガ災害ニ罹^カリテ倒^タ

レタルモノハ月蝕ノ最中ニ於テ最モ夥多ナリ又タ有
名ナル碩學「ベイコン」氏ハ其身体生來健壯ナルニ拘^カハ
ラズ月ノ蝕スルニ當リテハ常ニ氣絶セザルコト甚タ
稀ナリ千三百九十九年ニ於テ彼ノ「チャールズ」第六世
ハ時アツテ新月ニ當リ時アツテ満月ニ當リ必ス發狂
スルヲ常トセリ又タ「ゴール」ノ經驗ニ因レハ總テ病ノ
爲メニ狂氣トナリタル者ハ新月満月ノ際月毎ニ二度
必ス發病スルモノナルノ確實ナルコトヲ了知スルニ
足ル實ニ其他數箇ノ實驗ニ據テ或ハ熱病或ハ眠リナ
ガラ歩行スル病其他人類ノ諸病ニ付テ之ヲ見ルニ眞
ニ月球ノ我カ人間ノ身体ニ驚愕スヘキ感覺ヲ來スコ
ト確然トシテ之ヲ保證スルニ足ルベシ

「バルビケーン」氏問フテ曰ク
然レドモ其理未ダ解スベカラサルモノアリ
「アーデン」氏答ヘテ曰ク

今君カ問フ所ノ疑問ニ答フルニハ今ヲ距ツコト長キ
以前ニ或ル碩學ガ答ヘシ一言ヲ借り來テ以テ之レニ
答ヘントス是レ他ニアラズ「作説」ハ奇ナリ以テ信ヲ取
ルニ足ラス「下云ヘル一言ナリ

今ヤ「ミチエル、アトデン」氏ハ彼演舌ニ於テモ又タ大衆ノ面
會ニ於テモ皆ナ其局ヲ結了シ且ツ其他大家ノ疑問等ニ漸
シ之ニ答フルヲ得テ大家モ爲メニ感服シタルノ勢ナレハ
皆ナ障碍トナルヘキモノハ總テ自分ガ目前ニ存在スルナ
シ此ニ諸方ノ人民ハ同氏ヲ響應セシコトヲ欲シ周施方ナ



大戸光アストリニ到ル之圖

大阪 舞臺堂刺

撰任シテ專ラ此事ヲ擔任セシメ此ニ來車ヲ乞フモノ數千
一身ヲ以テ千裂萬分セザレハ能ク此ノ請求ニ應シ得ヘキ
ニアラス或ル地方ノ人民ハ同氏ニ請求スルニ合衆全國ヲ
回遊周行シ氏カ面ヲシテ全國人民ニ親知セシメソコトヲ
以テ若シ其請求ニ應スルトキハ數百萬圓ノ巨額ヲ呈セ
ソコトヲ發言セリ然レドモ同氏ハ固ヨリ其請求ニ應シ得
ヘキニアラザレバ氏ノ寫眞大中小ヲ撰ハズ萬衆ノ之ヲ購
求スルモノ其數ヲ知ラス故ニ寫眞師ハ氏ノ寫眞ヲ復寫ス
ルニ孜孜汲々トシテ專ラ力ヲ此ニ盡シ他人ノ撮影セソコ
トヲ頼ムモ敢テ其求メニ應セザルノ勢ナリ而シテ斯クノ
如キ多數寫眞モ購求者ノ求メニ充ルニ足ラス畫工ハ皆ナ
唯々自分ノ想像ヨリ同氏ノ肖像ヲ寫シ出シテ以テ之ヲ賣リ

人々モ亦タ其信偽ヲ問ハスシテ之ヲ買フノ有様ナリ此等ノ人物ハ皆ナ「アーデン」氏ヲ信用スルノ最モ男子ナリト雖トモ素ヨリ只タ男子ノミナラス婦人モ亦タ氏ヲ信用スルモノ其數ヲ知ラザレバ氏ヲシテ若シ終身其身ニ一定ノ妻ヲ娶ラザルノ心ナラシメバ一日ニ千人ノ妻ヲ娶リ一月ニ万人ノ妻ヲ代ユルモ亦タ容易ニ爲シ得ベキノ事トス又タ若キ美人ノ狂スルハ無理ナリトセザルモ或ハ四十歳或四十歳以上ノ時候ヲ過キタル老婦老嫗モ若キ美人ト同シク同氏ヲ愛スルノ餘情ヨリシテ皆ナ氏ノ寫眞ヲ晝トナク夜トナク手ヲ離サズ假令ヒ若シ「アーデン」氏が妻トナルトキハ皆ナ彼レト共ニ大彈丸ニ駕シテ月球ナル遠キ異世界ニ旅行スルノ危難ニ遇ハザルベカラザルモ敢テ厭フ所ナ

ク氏カ妻トナラント望ムモノ數千然レドモ同氏ハ斯クノ如ク夥多ノ婦人ニ交接シ無數ノ半佛半米ノ子孫ヲ造リ出シ之ヲ彼ノ月世界ニ移住セシムルノ意思ナケレバ亦タ此等ノ婦人ニ交ハルヲ欲セズ

楮ヲモ「アーデン」氏ハ數ヶ所ノ貴人ニ響應セラレ己ニ人氣モ鎮定ニ及ヒシヲ以テ朋友數人ノ爲メニ伴ハレテ彼ノ「コンソビヤド」砲ヲ一見セント欲シ共ニ「ストタン」丘ニ到リシガ同氏ノ彼ノ巨砲ヲ見ルヤ其成功ノ美ナルヲ欣ヒ竟ニ砲口ヨリ九百尺ノ地下ニ下リ無間地獄ハ此ヨリ格別遠カラザルベシト思ハレタリ

茲ニ「ゼイ、チー、マストン」氏ニ付キ一事ノ記載スヘキアリ同氏ハ社長「バルビケーン」氏及ヒ「コール」氏ガ「ミチエール、アー

「ア」氏ノ請求ニ從フテ彼ノ彈丸中乗組ノ一人トナシタル
 ナニヤニ同氏モ共ニ其乗組仲間トナリテ四人ノ同行連ト
 ナラシメコトヲ欲シ心ヲ決シテ一日同氏ハ「バルビケーン」氏
 ニ向フテ月世界旅行連ノ一人トナラシメテ請求シタル
 ニ因リ社長ハ心中甚々之ヲ拒ムハ彼ノ勇心ヲ挫折スルノ
 氣毒ナルヲ覺ヘタレドモ已ニ人物ノ決定シアレハ亦タ他
 人ヲ許スヘキニアラザルニ付キ彼ノ彈丸中ニ多クノ人ヲ
 容ル、ノ間隙ナキヲ以テ許スベカラザル理由ヲ説論シ氏
 ナシテ瞭然^{リロソビシ}之ヲ了解セシメタリ「マストン」氏ハ社長カ説論
 ナ聞クヤ其理止ムヲ得サルヲ以テ黙シテ止ミタレドモ未
 タ自ラ勇心ヲ抑壓^{オス}シ得ザレハ乃チ「ミ」チエル「ア」氏ニ
 頼談シ自分チ氏ノ代理トナシテ月世界旅行ノ同行連中ニ

入ラシメシコトヲ請求シ且ツ加フルニ自己ノ行ヲ以テ其
 利益アルベキ理由ヲ述ヘタリ

「ア」氏欣然トシテ曰ク

我カ老友ヨ今予ガ云ハントスル所ノ事ハ君ガ身上ノ
 利益ヲ謀リタルコトナレハ其言假令ヒ或ハ忌諱ニ觸
 ル、モ君必ス之ヲ怒ル勿レ請フ君ガ身体ノ不具ナル
 ナ願ミヨ君ハ素ヨリ身体不具ニシテ以テ彼ノ月世界
 ノ如キ遠キ異國ニ旅行シ得ザルノミナラズ又々此ノ
 地球モ自由自在ニ運動シ得ザルニアラズヤ君唯月世
 界旅行ノ舉ハ之ヲ望ム勿レ

「マストン」悲哀ノ聲ヲ發シテ曰ク

余ハ身体ノ不具ナルニヨリ月世界ニ適セザルノ人物

トスルカ

「ア、イ、デン」氏答へて曰ク

實ニ其旅行ニ適セザルモノナリ我カ老友ニ其不充分
 ナリトスル所ノ理由ヲ云ハシニ此度ノ月世界旅行ハ
 誠ニ地球土ヨリ第一派遣ノ使節ナシハ斯ル不具ナル
 人物ヲシテ派遣セシムルトキハ彼ノ月世界ノ住民ニ
 對シテ我地球ノ大耻辱ト云フベシ君以耻辱トナサズ
 ヤ君ハ恬然トシテ彼ノ住民ニ對シ得ルノ心ナルヤ又
 タ斯ル重任ニ負擔スル所ノ使節ニシテ大宴會中ニ於
 テ彼ノ住民ニ對スルトキ其不具トナリシ悲哀ノ理由
 ナ説話ニ彼等ガ快樂ヲシテ變シテ悲慘ノ思想ヲ發起
 セシメ以テ快シトシ我カ使節ノ重任ヲ汚ガストセザ

「マ、ストーン」氏甚タ不快ナル顔色ヲナシ曰ク

今君ガ云フ所ノ數言皆ナ理ナキニアラズ然レドモ若
 シ彼ノ月球ニ達シテ後重力ノ爲メニ身体粉末トナル

ルヤ且ツ其不具トナリシ原由ヲ説クトキハ我ガ地球
 上ニ於テハ斯ク猛獸ニ均シク互ニ殺シ互ニ搏テ其狀
 萬物ノ靈ナル人間ト云フモノ、所業ニアラザルコト
 ナルヲ知ラシメ彼ノ住民ノ嗤笑ヲ招キ以テ快シトナ
 スカ而シテ元來我地球ハ人民ノ數一千億ヲ容ル、ニ
 足リ彼ノ月球ハ只タ其數一億ヲ出デス斯クノ如キ細
 小ナル月球ノ人民ヨリ我ガ浩大ナル地球ノ人民ヲ嘲
 笑セシムルハ實ニ耻スベキノ一大事ニシテ少シク思
 慮スベキノコトニアラズトセシヤ

トキハ我が不具ナル身体モ君ノ完全ナル形軀モ寸毫ノ差別ナカルベシ君以テ如何トス

「ミチエ、アーデン」氏直ニ答ヘテ曰ク

實ニ疑ヒナク君ガ云フ所ノ事ノ如シ然レモ我等ガ確算スル所ニ據レバ必ズ彼ノ月世界ニ到達スルノ安全ナルハ恰モ我等ガ佛國ヨリ此ノ米國ニ來ルニ異ナラズ

彼ノ十月十八日ニ於テ試験セラレタル豫備ノ試験ハ最モ成功ノ美徴ヲ呈シ將來成功ノ確然タル證據ヲ得ルコトヲ得已ニ社長「バルビケーン」氏モ心漸ク安ニスルヲ得タリト雖彈丸發射ノ際其振動ノ勢力如何ニ至リテハ未タ之ガ試験ヲ經ザレバ確然タル計算ヲ得ル能ハズ社長ハ乃チ之ヲ試ミシコトヲ欲シ「ペンサコラ」フロリダ地ノ造兵所ヨリ三十

八英寸ノ臼砲ヲ借り來リ夥多ノ雇人ヲシテ彼ノ臼砲ヲ運送セシメ遂ニ「ヒルリスボロー、ロウド」ノ堤上ニ据付ケタリ蓋シ發射シタルノ際彈丸ノ海上ニ墮落シ其處ニ於テ破裂セシコトヲ望メバナリ而シテ社長ノ臼砲ヲ以テ彈丸ヲ發射スル目的ハ墮落ノ模様ヲ見ントスルニハアラズ唯發射ノ時ニ當リ彈丸ノ振動勢力ノ如何ヲ知ラントスルニアルノミ是ニ於テ社長ハ此ノ奇妙ナル試験ノ爲メニ空虚ノ彈丸ヲ製造セシメタリ總テ其内部ヲ包ムニ最良ノ網鉄ヲ以テ製作シタル彈力強キ網形ノモノヲ以テシ恰モ鳥巢ノ鉄ヲ以テ作りタルモノ、如シ

「セイ、チャー、マストン」氏曰ク

彼ノ彈丸中ニ我が身体ヲ容ル、ベキノ空間ナキハ實

三 畢生ノ遺憾ニシテ今將ク之ヲ如何セシヨリ此ノ
 好機會ヲ失ハ、亦タ天地ヲ極メテ斯クノ如キ好機會
 ニ再會スルナキヲ先知スレバナリ
 斯クテ彼ノ臼砲發射試驗ノ際ニ當リ彈丸ノ中ニ一足ノ箭
 見ト「セイ、サー、マストン」氏ガ愛養シタル所ノ栗鼠ト閉入
 レタリ蓋シ彈丸飛行中ニ於テ彼ノ小獸ノ振動ヲ堪ヘ亦タ
 眩暈ニ堪ユルノ如何ヲ實驗セシト欲スルノ意ニ出タルナ
 リ而シテ遂ニ彼ノ臼砲ニハ其量百六十磅ノ硝薬ヲ裝入シ
 大圓椎形ノ彈丸ヲ込メ發射シタリ彼ノ彈丸ガ巨大ナル速
 力ヲ以テ中天ニ飛行シ其彈道ハ浩大無邊ノ弓形ヲナシ一
 千以上ノ高サニ到達シ其處ニ旋舶セル小船ノ中央ニ墮落
 シタリ乃チ一瞬間ノ時ヲ移サズ彼ノ彈丸ガ墮落セル方向

ニ向フテ小船幾艘ヲ派遣シ最游泳ニ長タル者數十人ヲ雇
 ヒ水底ニ沈入セシメ彈丸ノ一部分ニ備ヘタル穴ニ堅牢ナ
 ル繩ヲ貫通シ直チニ彈丸ヲ大船ノ甲板上ニ引キ上ケ乃チ
 鉄釘ヲ取り除キ彈丸ノ蓋ヲ開キ彼ノ動物ヲ出シタリ此動
 物ヲ出シタル時間ト夫ヲ閉入シタル時間ト其間僅カニ五
 分時ヲ過キス「アーデン」「マストン」「バルビケートン」「ニコール」ノ
 四氏ハ船ノ甲板上ニ在リテ速カニ彼ノ動物ガ状態ヲ見シ
 ト欲シテ彈丸引上ケヨリ總テノ仕事ヲ助ケタリ彈丸ノ蓋
 ハ甚タ之ヲ發開スルニ難ク漸ク之ヲ開クヲ得テ彼猶ヲ引
 出シ見ルニ身体ニ少シ傷ツキタル部分アリタレドモ其健
 壯ナルコト平生ニ異ナル處ナク彈丸ニ觸シテ大空千尺ノ
 上ニ昇リタルノ徴候トスベキモノハ一トシテ之ヲ見ルナ

シ然ルニ栗鼠ハ何處ニ飛去リシカ又々如何シタリシヤ絶
 へテ其蹤跡ヲ見ルナケレバ皆ナ甚メ之ヲ疑ハザルモノナ
 カリシガ深ク之ヲ探索スルニ血痕ノアルヲ以テ之ヲ見レ
 バ猫ハ自分ガ旅友達ヲ食ヒ平氣ナル面ニテ歸ヘリシナリ
 「セイ、ナト、マストン」氏ハ自分ガ愛養シタリシ所ノ栗鼠ガ猫
 ノ爲メニ食殺サレシヲ悲ミ彼ノ爲メニ讎ヲ報ンコトヲ主
 張シテ大ニ笑ハレタリ
 此ノ大試験ヲ終リシヤ已ニ猫兒ノ安全ニ歸リシヲ以テ誰
 レトシテ月世界旅行ノ不成功ヲ唱フルモノナク亦之ヲ
 危険ナル事業ト思フモノナキニ至リ其他「バルビケーン」氏
 ノ會社ノ大事業ニツキ企テタル箇條モ爲メニ人ノ信用ヲ
 得テ彼ノ振動ニ因テ乗組人ノ身体ヲ害スルコトヲ恐ル、

圖之九彈大巨



モ至ク心裏ヲ去テ跡ナク只ク餘ス所ノモノハ彼ノ月世界
ニ旅行スルノ一事アルノミ
此ヨリ後二日「ミチエル、アイダ」氏ハ合衆國大頭領ヨリ使
節ヲ派出シテ殊ニ之ヲ祝シ著名ナル「マール」氏、
「イエツテ」氏ノ例ニ倣ヒ同氏ハ亞米利加合衆國府民ノ名稱
ヲ贈サレタリ

第二十三回

彈丸ヲ以テ車ニ換ユ

茲ニ説キ起ス前卷ニ於テ已ニ陳説セルガ如ク巨砲「コルン
ピヤド」ノ製作ハ其功ヲ歿^ナハリ今此ニ人心ノ集マル所ハ唯
彈丸ノ一點ニアリ彼ノ彈丸ハ即チ三人ノ大膽者ヲ乗セテ

違フ大空ヲ過キ彼ノ月世界ニ到ルヘキ馬車ノ代用ナリ而
 シテ彼ノ曾テ工業中止ヲ願シタル「ブレッドウヰル」商會ニ
 使テ馳テ成ル丈ケ急ニ巨大彈丸ヲ新製セシコトヲ依頼シ
 乃チ其彈丸ハ十一月二日ニ於テ其成功ヲ全フシ直チニ東
 方設置ソ鐵道ヲ以テ之ヲ「ストナン」丘上ニ運輸シ此ノ運輸
 方モ些少ノ遲滯スベキ異事ナク遂ニ同月十日ヲ以テ該丘
 ニ達スルヲ得「ミナエル」「アーデン」「バルビケーン」「ニコール」ノ
 三氏ハ其到達スルヲ待テ之ガ内部ヲ檢覽シタリ
 彼ノ巨大ナル彈丸ノ周圍ニハ深サ三尺ノ清水ヲ貯ヘ其底
 面ハ水ノ洩レ出テザル爲メニ圓キ木板ヲ以テ之ヲ塞キ水
 ハ自由ニ彈丸ノ周圍ヲ運行ス故ニ月世界旅行乗組ノ三氏
 カ座ヲ占ムベキ場所ハ水ノ上ニ張りタル彼ノ木板ナレバ

恰モ後ノ上ニ在ルニ似タリト云フベシ此ノ後ノ下ニハ亦
 タ厚キ木板ヲ縦ニ立テ水ヲ兩方ニ分割シ其發射時ニ當
 リ全部ノ水ハ振動力ニ因テ下部ヨリ上部ノ方ニ流通シ一
 時ニ彈丸ノ上部ナル水抜キ管ニ集合シ皆チ壓迫シテ該管
 ヨリ流レ出テ瀑布ノ如キモノヲ現出ス彼ノ水ヲ塞キタル
 木板ハ四方ニ最モ栓チ強ク打チ込ミテアレバ必ス容易ニ
 脱却スベキノ憂ナシトス然ルニ彈丸全部ノ水ガ悉ク彼ノ
 脱漏管ヨリ流出シ去リタル後ニハ必ス乗組人ハ余程強キ
 旋回進行ヲ覺ヘ少シク眩暈ヲ來タスヘシト雖モ然レモ砲
 口ヲ出スル時ノ第一最大旋回運動ハ彼ノ強勢ナル水ノ流
 出ニ因テ全ク之ヲ防禦シ得レバ亦タ些少ノモノハ憂トス
 ルニ足ラズトス且ツ彈丸内ノ上部ハ悉ク厚キ皮革ヲ以テ

張リ詰メ之ヲ固ク網鉄製ノ彈發條ニ附ケ其彈條ノ下ニ彼
 ノ脱漏管ヲ裝置シタリ斯クノ如クシテ以テ第一ノ旋回運
 動ヲ豫防スルノ方法ハ心ノ及フ處力ノ達スル所之ヲ爲シ
 盡セリ故ニ若シ此ノ豫防方法ヲ以テ之ヲ防クニ足ラサル
 トキハ「ミチエールアーソン」氏が曾テ戯レニ發言セシ如ク月
 世界旅行ノ勇者ハ網鉄ヲ以テ製造シ之ニ精神ヲ賦與スル
 ノ良法ヲ發明セザルベカラズト云ハザルヲ得ザルナリ
 彼ノ巨大ナル彈丸ノ入口ハ彈丸ノ上部ニ穿テタル狭小ナ
 ル穴ニシテ此ノ穴ハ「アルミニウム」ノ厚キ板ヲ以テ固ク
 密閉シテ内部ニ於テ堅牢ナル螺旋釘ヲ以テ之ヲ固着ス乘
 組人ハ彼ノ月世界ニ到達スルヤ否ヤ止ノ穴ヨリ遣ヒ出テ
 、其ニ長途ノ疲勞ヲ休ムベキナリ而シテ彈丸ノ内部ニ光

線ヲ引キ又旅行ノ際内部ヨリ外部ノ風景ヲ見ルニハ最モ
 厚キ硝子ヲ以テ引窓ノ如キモノヲ上部ニ二箇所下ニ二箇
 所トス此ノ引窓ハ金屬ノ板ヲ以テ時々火ハ瓦斯ヨリシテ
 之ヲ生ス此ノ瓦斯ハ特別ニ備ヘタル器具中ニ在リ之レニ
 火ヲ點シテ以テ飛走スル所ノ彈丸中ヲ温暖ナラシム
 已ニ彈丸中ノ千緒万端一トシテ具備セザルナク唯タ此ニ
 殘ス所ノモノハ我等ガ必ズ呼吸セザルハ此ノ一瞬時間ヲ
 消過シ得ザル所ノ大氣ニ付キ一疑問アルノミ此ノ疑問ト
 云フハ彈丸中ニ大氣ヲ新陳交代セシムルノ方法ナリ社長
 「バルビケーン」氏ハ此ノ大氣ノ一事ニ付テハ百考千思其方
 法ヲ索ムルニ甚ダ急ナリト雖モ亦容易ニ爲シ得ベキノ事
 ニアラズ然レドモ彈丸中ノ大氣ヲシテ新陳交代セシムル

ノ其法ヲ發明スルニアラザレバ彼ノ乘組ノ同行三人及ヒ社長ガ愛スル所ノ獵犬二疋ガ至ク其生活ヲ保持スルノ道ナシ

仰兩間ニ浮沈シタル大氣ナル者ハ其成分ヲ尋スルニ酸素二十一分窒素七十九分ヲ抱合シテ以テ成ル者ナリ而シテ人類ノ空氣ヲ呼吸スルニ當リ大氣ハ其成分中ニ就テ大約酸素ノ百分ノ五ヲ消失シ其失フタル酸素ノ高ヲ充ツルニ炭酸瓦斯ヲ以テス此ノ炭酸瓦斯ハ体ノ熱力ニ因テ血液元素ノ洗滌ヨリ生シ來レルモノナリ是ヲ以テ彼ノ彈丸ノ如キ四圍ヲ密閉セラレ大氣流通新陳交代ノ道ナキモノ中ニ閉ヤ込メラル、トキハ其中ニ在ルコト若干小時ニシテ氣中ノ酸素ハ至ク人ノ呼吸ニ因テ消失シ代ユルニ炭酸瓦斯

斯ヲ以テシ人ヲシテ呼吸スルヲ得ザラシム故ニ之レガ防禦ヲナスノ策ニ二法アリ第一ハ彼ノ消失シタル酸素ヲ充ツルニ新酸素ヲ以テシ第二ハ人ノ呼吸ヨリ生出シタル炭酸瓦斯ヲ消散セシムルニ在リ此ノ二策ハ誠ニ容易ニ爲シ得ベキコトニシテ之レヲ爲スニハ唯タ「クロロレト、ポッター」及ヒ「コーナス」ノ二品ヲ以テ足レリトス「クロレト、ポッター」ハ白キコト水晶ノ如ク結晶シタル鹽類ナリ之ヲ四百度ノ熱力ニ因テ温ムルトキハ其形ヲ「ポッター」ム、チフ、クロリユール」ニ變シ其中ニ含蓄セル所ノ酸素ハ至ク散布シテ氣中ノ酸素ニ合併ス之ヲ精密ニ算測スルニ「クロレト、ポッター」ノ二十八磅ハ我百二磅ニ當ル即チ佛國量目ノ二千四百「リットル」ニシテ二十四時間中ニ

於テ旅行者が要スル所ノ酸素ノ全量ナリコトヲ示シ、ボツ
 タース「ハ元來其性質炭酸瓦斯ニ至強最大ノ親和力ヲ有スル
 ナリ以テ氣中ニ存在セル過剩ノ炭酸ヲ除去セント欲スルニ
 ハ該「ボツタース」ヲ瓶中ニ盛リテ之ヲ蕩搖スレハ其成分其
 功ヲ呈シ氣中ノ炭酸ト抱合シ重炭酸「ボツタース」ニ變ス故
 ニ此ノ二品ヲ以テ彼ノ惡質ニ變性シタル空氣ニ人間生活
 養生成分ヲ充溢シテ亦々之ヲ良質ノ空氣ニ復性スルニ足
 レリトス
 右ニ續陳セル所ノ經驗ハ或ハ獸類ヲ以テシ或ハ唯々理論
 上ノ推測ニ起リ皆一トシテ人間ノ以テ之ヲ試驗シタルコ
 トナシ是ニ因テ之ヲ觀ルニ世間理論ニ適スルコトノ之ヲ
 實地ニ試ミテ或ハ成功ヲ全フセザルモノナキニアラザレ

ハ此ノ月世界旅行ニ付テモ亦ク同一ニシテ假令ヒ其理論
 甚ク美ナルモ亦々實地ノ如何ニ至リテハ或ハ疑ヒナキニ
 アラズ然ルトキハ人間ノ以テ之レガ實驗ヲナシテ以テ其
 確證ヲ親知スルノ他ニ良法アルコトナシ故ニ彼ノ有名ナ
 ル「ゼイ、サー、マストン」氏ハ自己ノ身体ヲ以テ之ヲ實地ニ試
 ミンコトヲ望ミタリ

彼ノ勇敢ナル砲術家曰ク

余ヲシテ此ノ實驗ヲ爲シザルヤ余思フニ彼ノ彈
 丸中ニ一周間我が生活ヲ保存シ得ルハ容易ナル事ト
 ス

時ニ會社ノ諸氏モ「マストン」氏ガ切ニ躬ヲ實驗センコトヲ
 望ムニ因ツテ拒ムニ由ナク竟ニ其所望ニ任セ彼ノ二種「ボ

ツタースノ多量ヲ購求シ且ツ八日間ノ食料ヲ具備シ十一月十二日午前五時特別ヲ諸氏ニ告ケ同月二十日午前五時マテ決シテ之ヲ開クベカラザルヲ約シ同氏ハ彈丸ノ中ニ入リタリ

同氏ノ諸友ハ氏ガ八日間生活ヲ保存スルヲ得亦タ健壯ナル顔色ヲ見ルノ幸ニ再遇スベキヤ否ヤヲ疑ヒ心皆ナ安カラズ社長「バルヒケーン」ケビティンニコール「ミチエル、アイ」ノ三氏其他砲銃會社々員ハ性來「マストン」氏ノ滑稽家ニシテ一言以テ人ヲ絶倒セシメ同氏アルヲ以テ會社ノ事業ハ皆ナ倦怠^{シカ}ヲナサズシテ之ニ汲々タルヲ得誰レトシテ彼ヲ愛セザルモノナク且ツ同氏ノ勇敢ナルコト常ニ人ノ畏懼スル所ノ危事ハ自ラ險ヲ冒シテ之ヲ爲サンコトヲ欲

スルヲ以テ同盟社員ノ之ヲ防禦シテ危險ヲ冒カサシメス然ルニ此ノ空氣試驗ノ事ニ付テハ同氏所志ヲ歴スル能ハズシテ其請願ニ任シタルハ毎ニ同氏生命危險ヲ思フテ皆彈丸ノ周圍ニ佇立默然タル多時ナリシガ彈丸ノ内ヨリ同氏ガ吟聲微々漏レ聞ヘタルハ皆ナ其恙^{ツカ}ヲ知テ立テ去リタリトカヤ

明治十二年十二月廿四日版權免許
同 十四年二月一日別製本御届
同 十四年三月 出版發兌

每卷定價十二錢

逆人 高知縣士族 井上勤
東京芝區二葉町七番地寄留



兼出版人 兼發賣

三木美記
大坂東區北久寶寺町四丁目四十四番地住

賣弘所

大坂心齋橋通北久太郎町北二入 柳原喜兵衛

同

同 本町心齋橋東二入 書籍會社

同

同 同所 岡島真七

同

東京南鍋町一丁目 うさぎや誠

同

同 馬喰町二丁目 石川治兵衛

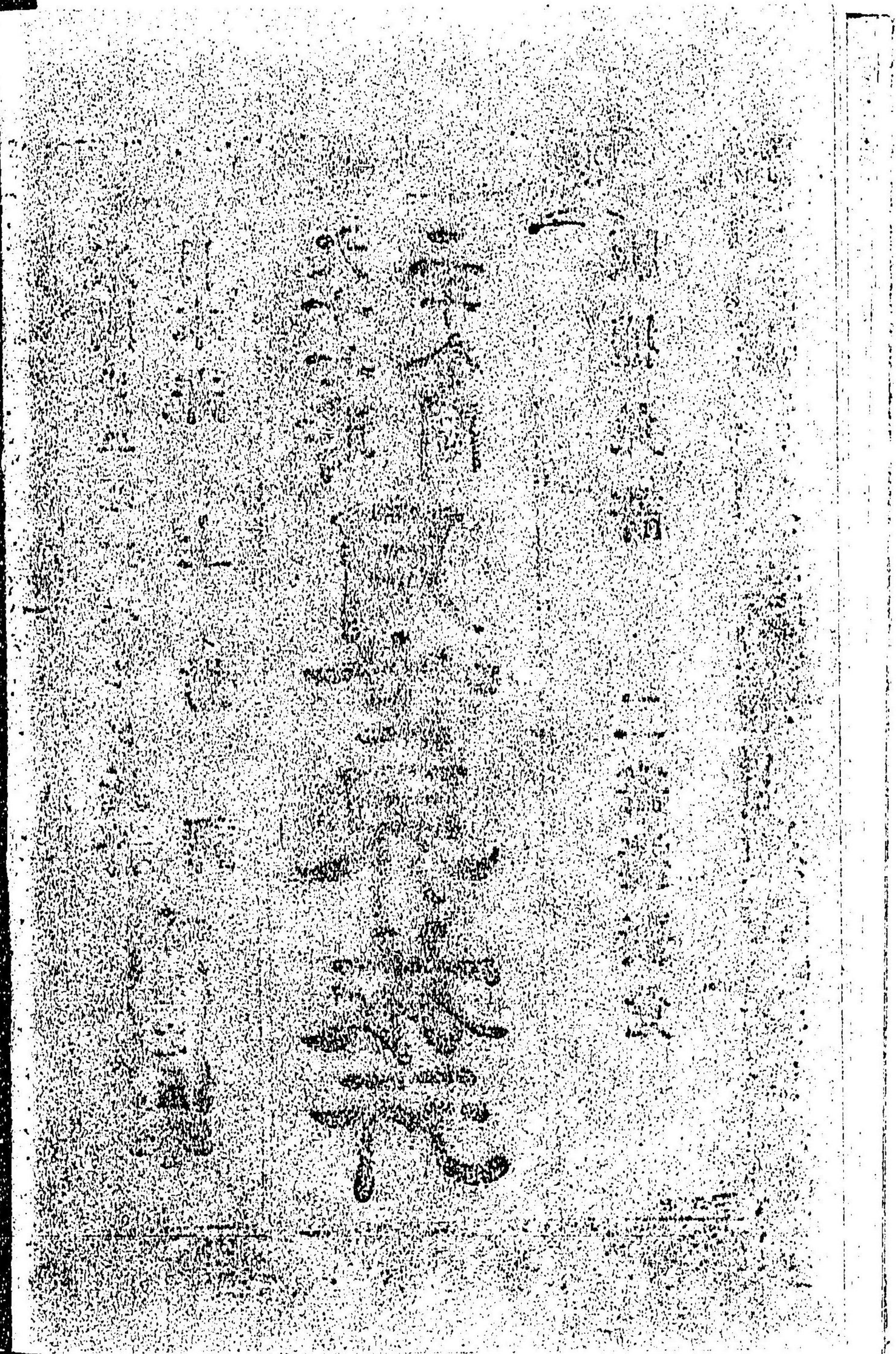
米國ジュルスベルン氏著
日本井上勤譯

卷之九

九十七時
二十分間
月世界旅行

版權免許

二書樓發兌



二十九分間 月世界旅行第九卷

米國 シユールスベルン氏著

日本 井上勤譯

第一卷 第二十四回

巨大ノ望遠鏡

茲ニ説キ起ス砲銃會社ニ於テ會社ノ大事業ニ付キ數百萬
ノ巨額ヲ募集スルニ當リ其趣向ハ只ダ米國人民ノミ之
ヲ募ルノ本心ナリシガ彼ノ事業ノ地球上萬國ニ其利益ト
ナルベキヲ以テ遂ニ巨額ヲ萬國ニ募集シ國トシテ之ニ應
ジザルモノナク遠ク會社ノ事業ニ必要ナル金額ヲ超過シ
已ニ募金局ヲ閉鎖スベキノ時即去年十月二十日ニ於テ砲
銃會社ノ社長「ハルピケーン」氏ハ世界未聞ノ巨大ナル望遠

二

鏡ヲ製造セシコトヲ彼ノ「ケンブリッヂ」天象臺ニ依頼シ此ノ製造ニ付キ巨額ノ費用ヲ要スベキヲ以テ其前金若干ヲ該天象臺ニ拂渡シタリ此ノ望遠鏡ヲ製造スルノ目的ハ月球ノ表面ニ於テ直經九尺以上ノ物体ナレハ我地球ヨリ之ヲ見得ルノ装置ナレハ月世界旅行ノ際彼ノ巨大彈丸ヲ我ヨリ認メントスルニ在リ

抑砲銃會社ニ於テ彼ノ大事業ヲ企テタル時ハ已ニ究理學中ニ就テ光線學ハ頗ル其蘊奧ニ至リ又々機械學ハ最モ高度ニ達シ其精巧ヲ極メタレハ望遠鏡ノ如キモ遂ニ其精妙ヲ極メテ落成ノ功ヲ奏セリ實ニ好時機ナリト云フベシ此ノ時ニ當リテ地球上ニ有名ナル巨大ノ望遠鏡ハ二箇アリ各々皆ナ潑大ナル視力ヲ有シ其大サモ又從フテ鴻大無

邊ノモノトス第一ハ「ハーセル」氏ニ因テ製造セラレタルモノニシテ其高サ三丈六尺内ニ四尺六英寸ノ目鏡ヲ有シ其視力ノ強大ナルコト物体ヲ六千倍ノ大サニ見ルヲ得ベシ第二ハ「アイランド」ノ「パリス」ニ於テ据付ケ其持主ハ「ロイド」トス此ノ望遠鏡ハ其管ノ長サ四丈八尺目鏡ノ直徑ヲ六尺トシ視物ノ大サハ之ヲ六千四百倍ニ認メ得ルモノナリ之ヲ實地ニ用ユルニハ鍊瓦石ヲ以テ大ナル基礎ヲ築造シ其上ニ彼ノ望遠鏡ヲ据付ケザルベカラズ其重サヲ拾ニ「ト」半トス右ニ陳述シタル望遠鏡ハ其大サ其重サ實ニ高大驚シニ足ルモノナリト雖モ視物ノ大サヲ唯々僅カニ六千倍ニ大メ得ルモ其以上ニ至ルヲ得ス故ニ彼ノ月球ノ巨大ナルモノモ三十九英里ヨリハ近

三

四

キ場所ニ引付ケ見ルコトヲ得ス此ノ割合ヲ以テ推算スレバ其長サ甚ク長キカ又ク直徑六十尺ヲ超過スルノ物体ニアラザレバ月ノ位置ニ於テ之ヲ見ル能ハズ今般會社ノ大試験ニ於テハ其彈丸ノ直徑ヲ九尺トシ其長サヲ一丈五尺トスルノ議決ニ因リ已ニ彈丸モ其大サニ製造シタレハ此ノ場合ニ於テハ必ズ月球ヲ少ナクハ五英里以内ニ引キ寄セザルベカラズトス故ニ此ノ大試験ニ用ユル望遠鏡ハ視物ヲ四万八千倍ニ大ムルベキ至微至細ノ巧妙ヲ極メタルモノニアラザルヲ得ズ故ニ右ニ述ブルカ如キ浩大ナル望遠鏡ヲ製造スルノ意思ヲ彼ノ「ケンブリッヰ」天象臺ノ司長ニ陳述シタリ固ヨリ費用ニ充ツルヘキ金額ハ幾十萬圓ヲ要スルモ敢テ^{シエンゼン}逡巡スヘキニアラザレドモ唯此ノ製造ニ付

五

困難ナルハ單ニ之ヲ製造スルノ一點コアルノミ天象臺ニ於テハ役員ヲ招集シテ左議右論望遠鏡製造ニ付キ其原理ヲ^ル糾シ其方法ヲ究メ竟ニ之ガ製造ノ工業ニ着手セリ
 備テ「ケンブリッヰ」天象臺ノ役員ガ推算スル所ニ據レハ新製反射鏡ヲ容ル、ベキ管ノ長サハ之ヲ二百八十尺ニ製作スルヲ要シ目鏡ノ大サハ其直徑一丈六尺ニ造ラザルベカラズ此ノ望遠鏡ハ非常巨大ナルカ如ク見ユレドモ先年天文家「フーシ」氏カ思想ヨリ模出シタル所ノ一萬尺ノ望遠鏡ニ比較スレバ亦タ小ナリト云フベシ
 彼ノ天象臺ニ於テ新製スル所ノ大望遠鏡据付ノ場所ヲ撰定スルニ當リ甲ハ此ニ於テスベシト云ヒ乙ハ彼レニ於テスベシト云ヒ異說百出元來此ノ据付ケ場所ハ或ル至高ノ

六

山嶺ヲ撰ハザルベカラズ然ルニ合衆國ニ於テハ高山甚タ
 稀レニシテ高山ト云フベキモノハ只タ二線ノ山脈アルノ
 ミ彼ノ米人カ特名ヲ下シタル大河「キング」チフリ「パース」川ノ
 意云フ「ミッソシ、ピ」ノ兩河二脈ノ山間ヲ流通ス東方ニアツテ
 ハ「アハラチヤン」山アリ其最モ高キ處ハ「ニュー、ヘン」アシヤニ
 於テ五千六百尺ノ高サヲ超過セズ是レ高山ト云フニ足ラ
 ズ然レドモ西方ニ在テハ「ロツキー、マチン」ライソノ高嶽天
 ニ聳ル其山脈一望千里嵯峨トシテ「マゲル」ランノ海峡ニ發
 シ延々トシテ南亞墨利加ノ西方海岸ヲ廻リ其名稱或ハ變
 シテ「アンデス」トナリ或ハ轉ジテ「コルジ」ルラ「ス」トナリ其
 他部分ニ因テ各々其名ヲ異ニセリ又タ進ンテ「パナマ」ノ地
 峡ヲ横截シ北亞墨利加ノ全部ヲ貫通シ終ニ北氷海ノ境界

ニ達シテ此ニ終リタリ

此ノ山脈ノ至高ト稱スベキ者モ未ダ一萬七百尺ヲ超ユル
 モノナシ然レドモ亞墨利加全國ニ於テハ右ニモ已ニ陳述
 セルカ如ク甚タ高山大嶽ノ稀ナル處ナレバ右ノ一萬七百
 尺ノ高サ以テ不得止十分ナリトシテ満足スルヨリ他ハ良
 法ノ見出シ得ベキナク竟ニ彼ノ山脈中ニ就テ最高ノ處ニ
 望遠鏡ヲ据付ケルコトノ議ニ決定シ是ヲ以テ總テ望遠鏡
 据付ニ必要ナル諸器械等ヲ輸送シ其他人夫等ヲ彼ノ「ミッ
 ソリ」地方ナル「ロング」ビート」ノ山嶺ニ派遣シタリ

七

此ノ望遠鏡ヲ彼ノ山嶺ニ据付ケルニハ亞墨利加人ノ機械
 術ニ長タルモ又タ万事業ヲ企ツルニ勇敢ナルモ此ノ工業
 ヲ竣功スルハ實ニ其至艱至難ナルコト口ノ以テ之ヲ陳述

シ得ヘキニアラズ又ク素ヨリ筆ノ以テ其難狀ヲ名狀シテ
 之カ真況ヲ寫シ出シ得ヘキニアラズ
 此ノ工業ニ付キ會社々員ヨリ機械方ノ良方法ヲ以テ巨大
 ナル切り石圓柱ノ大ナル部分三萬「ボント」ノ重量アル目鏡
 等實ニ至重ナル器物ヲ長キ沙漠ノ平原ヲ涉リ無限ノ深林
 ヲ過キリ万人カ戰慄スル嶺ノ巢穴ヲ貫キ其高サ一萬尺以
 上ニシテ白雪間斷ナク重積シタル山嶺ニ急運スルコトノ艱
 難ナルハ言辭ノ以テ之ヲ説話セザルモ昭乎トシテ明カナ
 リト云フベシ然レドモ此ノ運輸方ニ付キ千艱百難ノ之ヲ
 妨グルアリト雖モ米國人ノ勇敢ナルヲ以テ竟ニ之ニ勝ッ
 コトヲ得タリ而シテ工人數萬人ノ力ニ因テ竟ニ若干月間
 ニ於テ之カ成功ヲ告ケ已ニ十二月モ近ツキ一見驚愕スベ

キ巨大ナル望遠鏡ハ空中二百八十尺ノ高所ニ聳ヘタリ
 此ノ巨大ナル望遠鏡ヲ扛ルトキハ先ツ至強至大ノ重物扛
 舉機械ヲ傍ニ据ヘ置キ之カ助ケニ因テ纜カニ之ヲ舉グルコ
 トヲ得タリ元來亞墨利加ノ機械者ハ常ニ自ラ自負シテ曰
 シ我ハ如何ナル重キ品物ト雖モ之ヲ如何ナル高所ニ舉グ
 ルモ人ノ望ム所ニ任スヘシト此ノ大言余リ道理ノ外ニ在
 ルカ如ク見ユレドモ此ノ巨難ナル工業ヲ竣功セシヲ以テ
 其虚誕ニアラザルヲ人トシテ驚愕セザルモノナカリシカ
 此ノ望遠鏡ノ製作費ヨリ運輸費据付ケ費ニ到ルマテ總計
 合シテ四十萬圓ノ巨額ニ至リタリ
 俎テ彼ノ望遠鏡ハ初テ月世界ノ方ニ向フテ之ヲ向ケシカ
 視察者ハ心頻リニ如何ナルモノ、見ユルナラント急ギテ

Rockey mountain

之ヲ窺ヒ四萬八千倍ノ視力ナレバ必ス鏡裏ニ月世界中ノ
人民ヨリ動物植物都邑湖水大海等ノ異況ヲ現出スヘシト
思想シタルド全ク曾テ學術上ヨリ已ニ經驗シタル所ノ事
實ノ他ハ一トシテ之ヲ見ルナク月球ノ平面上ニ於テ只
見ユル處ノモノハ火山ノ燒殘墨ノ如キモノ、ミニシテ僅
カニ其性質ヲ鑑定スルヲ得タリ然レドモ「ロツキーマチン
テイ」高嶽上ノ巨大望遠鏡ハ砲銃會社大事業ノ用ニ供ス
ルノ以前之ヲ天文家ノ試験ニ用キ大ニ巧蹟ヲ顯ハシ此ノ
至強ナル視力ニ因テ天ノ極處ヲ認メ數萬衆星ノ直徑ヲ精
密ニ確定シ「ケンブリッヅ」天象臺役員ノ一人「クラーク」氏ハ
「ロード、ロツス」ノ望遠鏡ニ因テハ決シテ發見シ能ハサル所
ノ星雲ヲ確定シ得タリ

第二十五回

結末ノ談話

茲ニ説キ出ス既ニ十一月二十二日ヨナリタルハ彼ノ會社
大事業ノ實驗ハ纔カニ十日ヲ餘スノミ社會ハ皆ナ首ヲ延
ヒテ其當日ヲ待ツノ勢ニシテ其實驗ヲ成功シ會社ノ大名
ヲ地球上ニ轟カシ彼ノ月世界ノ大國ヲ我カ米國聯邦ノ中
ニ加ヘ米國ヲシテ天地間無上ノ強國タラシメ曾テ華盛頓
カ獨立戰爭ヨリ此ノ米國ヲシテ一大強國タラシムルニ焦
心苦慮シタル巧勞ヲ不朽ニ賞センカクメ彼ノ月世界中危
峰々頭ニ向フテ紀念碑ヲ建テント欲シ社員ノ心魂飛揚シ
テ已ニ天外ニ在リ「ケピテイ」ニコール氏ハ月世界旅行實
驗ノ不成功ヲ主張シテ金數千圓ヲ賭物トナシタリ

儲テ彼ノ巨火ヲ彈丸ニ「コルピヤド」砲ノ中ニ容ル、コハ
 其以前ニ先ツ遣火棉ヲ入レザルベカラズ其重量ヲ四十萬
 「ポンド」トス索口ニ道理ナキ忘説ト云フコモアラザレドモ
 「ニコール」氏自説ヲ主張シテ曰ク

彼ノ道火棉ノ重量斯クノ如ク驚愕スベキ多量ニシテ
 結局如何ナル惡果ヲ生スルヤ知ルベカラズ且斯クノ
 如キ燃燒ニ易キ物質ノ巨大ナル重量ノ上ニ彼一見寒
 膽ニシキ巨大彈丸ノ大重量ヲ以テ之ヲ壓縮スルトキ
 ハ必ズ疑ヒモナク棉ハ火ヲ發シテ不測ノ災害ヲ起
 スベシト

右「ニコール」氏ノ説ク所ニ因リハ此ノ大事業實驗ハ全ク亞
 墨利加人ノ不注意ノ陥多ニシテ如何ナル大災害ヲ發起シ

圖之鏡遠望嶺山一キツロ



大坂 豊前屋

來ルヤ知ルベカラザルカ如シト雖モ然レドモ「バルヒケ
ン」氏ハ自分カ心中ニ於テモ之ヲ測算シ確然其成功スベキ
ヲ信ズレハ些少ノ疑團モ之カ心裏ニ存スルナク「ニコ
ル」氏カ所説ニ因テ動ク所ナク「泰然トシテ恰モ地上ニ安置シ
タル巨大彈丸ノ動カザルニ似タリ同氏ハ先ツ發射ノ用意
トシテ道火棉ヲ彼ノ「ストヂンヒル」ニ輸送スルニ自ラ其方
法如何ヲ雇人頭取ニ指示シ其危險ナルコトヲ語り切ニ之
ヲ賦メタリ其輸送方法ハ彼ノ道火棉ヲ小量ニ區分シ小キ
箱ニ詰メ嚴ニ之ヲ密封シテ運送スルニ在リ又々之ヲ「テン
パ」市街ヨリ彼ノ丘上ニ送致スルニハ該市街ヨリ丘下マデ
曾テ設置シタル鐵道上推車ヲ以テ丘下ヨリ「コルンピヤド」
砲口マデハ數百ノ工人（コルンピヤド）相（コルンピヤド）接（コルンピヤド）シ肩相（コルンピヤド）磨（コルンピヤド）シ以テ之ヲ箱ニ儘

ニ運輸シ砲口ノ傍ニ据付ケタル重荷扛舉機械ヲ以テ之ヲ
 砲底ニ下スナリ素ヨリ此ノ道火棉ノミニ限り激力ノ摩擦
 ナ恐ル、コト甚ダシクレハ蒸氣機械ヲ所用スルヲ得ズ如
 之此レヲ運輸スルカ爲メニ工業場ノ周圍ニ英里内ニ於テ
 ハ一點ノ火ヲ置クヲ許サズ且十一月ハ太陽光線ノ已ニ其
 力ヲ減殺シタレドモ萬一其光線力ニ因テ道火棉ニ點火ス
 ルカ如キ一大災害ヲ生スルモ計リ難キヲ慮リ日中ノ工業
 ヲ懼レ竟ニ此工業ヲ夜間ニ於テセザルベカラザルニ決シ
 タリ然レドモ暗黒中ニ工業ヲ爲シ得サレバ「ソームコルツ
 フ」氏カ發明セル裝置ニ因テ真空中ニ發生スル所ノ光ヲ借
 テ「コルビヤド」砲九百尺ノ下ヲ照ラサ、ルベカラズ此ノ裝
 置ハ頗ル巨大ノ費額ヲ要スル者ナリ而シテ彼ノ道火棉ニ

點火スルニハ多數ノ厚キ紙ヲ以テ火藥ヲ包ミタルモノヲ
 該棉ノ下ニ容レ其火藥ト電氣ヲ通スル所ノ金屬ノ線ト相
 連續ス十一月二十八日ニ於テ八百箇ノ火藥ヲ包ミタル厚
 紙ヲ「コルンビヤド」砲ノ底面ニ下シタリ
 却説ク近村ノ人民ハ已ニ裝置ニ着手シタルヲ聞キ其巨砲
 内部ノ仕組方ヲ目撃セント欲シ此ニ集合スルモノ數千人
 其雜沓喧嘩筆ノ以テ實ニ之ヲ名狀スベキニアラズ或ハ強
 迫シテ之ヲ見シコトヲ請ヒ或ハ爭門シテ之カ柵内ニ入ラ
 シコトヲ謀リ千方萬策其力ヲ盡スト雖モ社長「バルヒケ」
 「氏ハ泰然トシテ動ク色ナク終ニ一人トシテ「スト」ヲシ
 ル」ノ柵内ニ入テ其工業ヲ親視スルヲ許サズ然レトモ毎日
 彼ノ柵ニ聚マル所ノ人員無數ニシテ實ニ立錐ノ地ナク人